

能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会

報 告 書

平成 21 年 3 月

総務省 北陸総合通信局

Contents

第 1 章 はじめに	1
1-1 我が国の ICT インフラ整備に関する取組みについて	3
1-2 北陸地域における ICT インフラ整備に関する取組みについて	5
1-3 北陸地域における ICT インフラ・サービスの状況について	6
第 2 章 能登地域における ICT インフラの現状	8
2-1 ケーブルテレビ整備状況	8
2-2 ブロードバンド整備状況	9
第 3 章 ケーブルテレビのサービスの充実	11
3-1 自主番組の制作状況・課題	11
3-2 能登地域内で自主番組の交換・共同制作を行うことについて	23
3-3 能登地域以外と自主番組の交換を行うことについて	32
3-4 県議会中継の配信について	40
3-5 アマチュアが制作した映像コンテンツの活用について	47
3-6 他の地域の取組み事例について	57
3-7 まとめ.....	61
第 4 章 ブロードバンド・ICT 利活用の促進	64
4-1 能登半島 ICT 利活用セミナーの実施	64
4-2 遠隔夕食会の実施	67
4-3 他の地域の ICT 利活用取組み事例について	70
4-4 まとめ.....	73
第 5 章 提言（能登地域における望ましい ICT 利活用の方策について） ...	75
5-1 ケーブルテレビのサービスの充実	75
5-2 ブロードバンド・ICT 利活用の促進	77
5-3 その他.....	78

<資料編>

- 資料 1 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 開催要綱
- 資料 2 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 構成員名簿
- 資料 3 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 開催経緯
- 資料 4 : ワーキンググループの設置について
- 資料 5 : ワーキンググループ構成員名簿
- 資料 6 : ワーキンググループ活動経緯

第1章 はじめに

携帯電話やインターネットが急速に普及するなど情報通信技術（ICT）は、電気、水道、道路などと同様、我が国の生活に必要な社会的基盤（インフラ）となりつつある。一方で、ICT を利用できる環境にいる者・いない者、ICT を使いこなせる者・使いこなせない者、といった、いわゆるデジタル・ディバイド（情報格差）の問題が指摘されており、その解消が、大きな政策課題になっているところである。このようなデジタル・ディバイドの解消のためには、ブロードバンドなどのインフラ整備を進めるとともに、その利活用の促進もあわせて進めていく必要がある。

能登地域では、ケーブルテレビ網を中心としたインフラ整備が、ここ数年、急速に進められており、平成 21 年 4 月には、能登地域全域で、ブロードバンドや地上デジタル放送といったサービスが提供される予定である。

「能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会」は、このような能登地域におけるインフラ整備のタイミングを捉えて、ICT 利活用の促進を図るために開催された。

能登地域における ICT インフラはケーブルテレビ網が中心だが、これらのケーブルテレビ網は、地方自治体単位で整備されており、サービスもその単位で提供されており、事業規模が小さいという特徴がある。一方、地理的には日本海に突き出した能登半島の中に位置しているため、能登地域以外の外部の情報が入りにくく、また、情報発信が少ない。また、経済的には、漁業、観光業が主たる産業であり、大きな企業はなく、住民の少子高齢化が進んでいる。

本調査検討会では、ケーブルインフラを中心に ICT インフラが整備されたという能登地域における地域事情を踏まえ、ケーブルテレビのサービスの充実とブロードバンド・ICT の利活用促進という 2 つの観点から検討を進めた。それぞれの観点から、様々な実証実験・セミナーの実施や、他の地域における活用事例の紹介を行った。

例えば、ケーブルテレビのサービスの充実の観点からは、自主番組の充実方策について検討を行った。その中で検討の 1 つとして、他地域の自主番組が視聴者に受け入れられるかどうかの実証実験を行った。この実証実験では、7 つの地方自治体のケーブルテレビ関係部局が、能登特有の祭りなどの映像コンテンツを持ち寄って、共同して 1 つの番組に編集し、それを各ケーブルテレビで放映するとともに、視聴者の反応を評価した。また、映像コンテンツの充実の方策として、いわゆる“よそ者”や“若者”の視点から作成された映像コンテンツが、ケーブルテレビの自主番組として視聴者に受け入れられるか、といった検証も行った。さらに、調査検討会の中で、富山県や鳥取県のケーブルテレビの先進事例を紹介し、それぞれの有識者との意見交換を通じて知見を深めることも行った。

一方、ブロードバンド・ICTの利活用促進の観点からは、実証実験の1つとして、ケーブルテレビのブロードバンドを利用したテレビ会議システムにより、2つの家庭を結んだ実証実験を行った。この実証実験は、地域住民の方々に、ブロードバンドの魅力と有用性を実感してもらうことを目的として実施したものである。また、別の活動として、能登地域と国内外の拠点をネットワークで結んで、各地域の活動状況の紹介等を通じて、ブロードバンドやICTの魅力を紹介するセミナーを開催した。

こういった様々な活動を通じて、関係者間でICTインフラの有用性について共通認識を得た上で、本調査検討会では、能登地域にふさわしいICTインフラの利活用方策について提言を取りまとめた。

前述のように、能登地域は、過疎化、少子高齢化、若者の流出等が進行している。一方、ICTインフラの整備・利活用促進により、観光等の一層の産業振興、新産業の創出、医療・教育の高度化、行政情報の提供等を通じた住民生活の向上、に寄与できる可能性を秘めている。本報告書が、能登地域におけるICT利活用の促進に役立ち、ICTによる地域力・暮らしの向上に寄与することを期待する。

1-1 我が国の ICT インフラ整備に関する取組みについて

我が国では、平成 18 年（2006 年）1 月に IT 戦略本部により策定された「IT 新改革戦略」などに基づき、2010 年度までにブロードバンド・ゼロ地域を解消することを目指しているところである。また、平成 18 年（2006 年）8 月に総務省により策定された「次世代ブロードバンド戦略 2010」などに基づき、2010 年度までに超高速ブロードバンドの世帯カバー率 90%以上を目指している。現在のブロードバンドの整備状況は下図のとおりである。

こういったブロードバンド・ゼロ地域の解消を含む、デジタル・ディバイド（情報格差）の解消について検討を行うため、総務省は、平成 19（2007）年 10 月から「デジタル・ディバイド解消戦略会議」（座長：黒川 和美 法政大学経済学部教授）を開催し、平成 20 年 6 月 24 日の報告書を取りまとめたところである。本報告書では、ブロードバンド基盤の整備に当たっては、遠隔医療等の公共アプリの利活用を促進し需要を創出しながら対応していく、いわゆる、基盤整備と利活用の一体的推進の重要性等を提言しているところである（図 1-1-2 参照）。

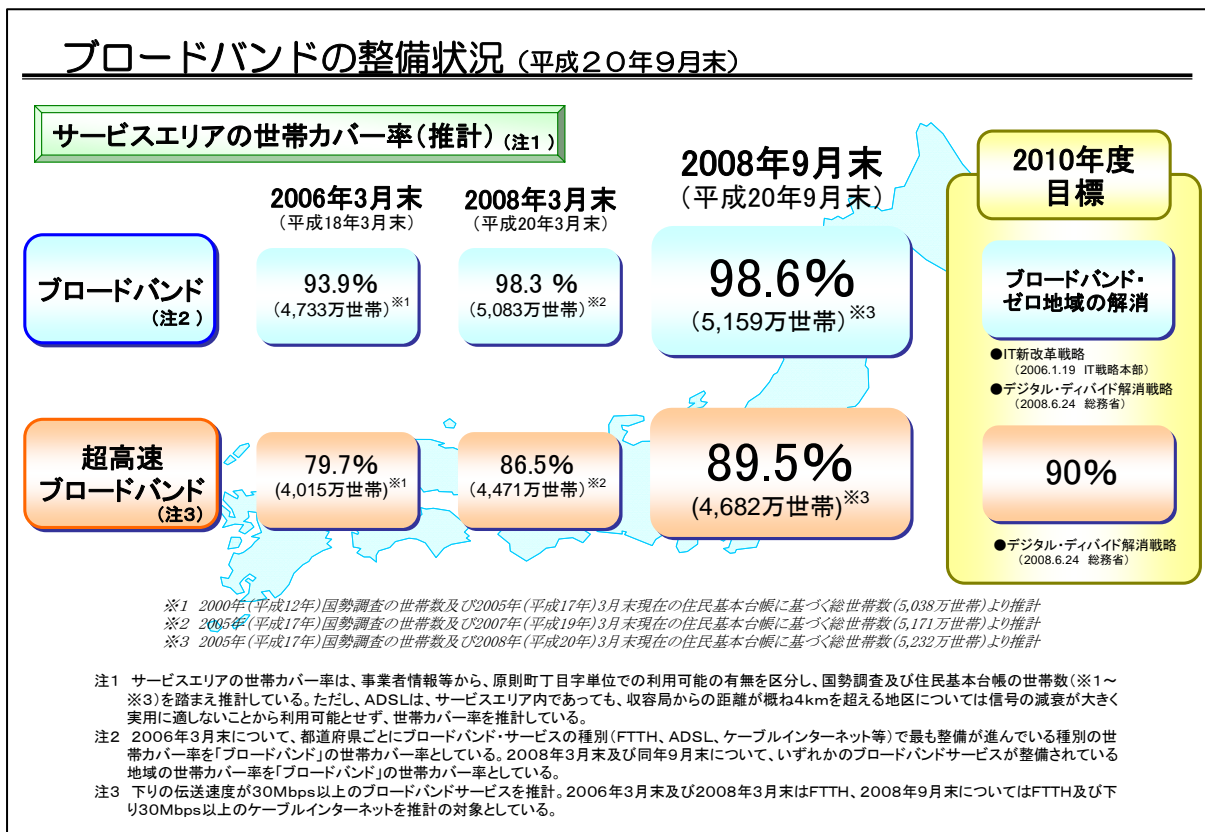


図 1-1-1 我が国におけるブロードバンド整備状況

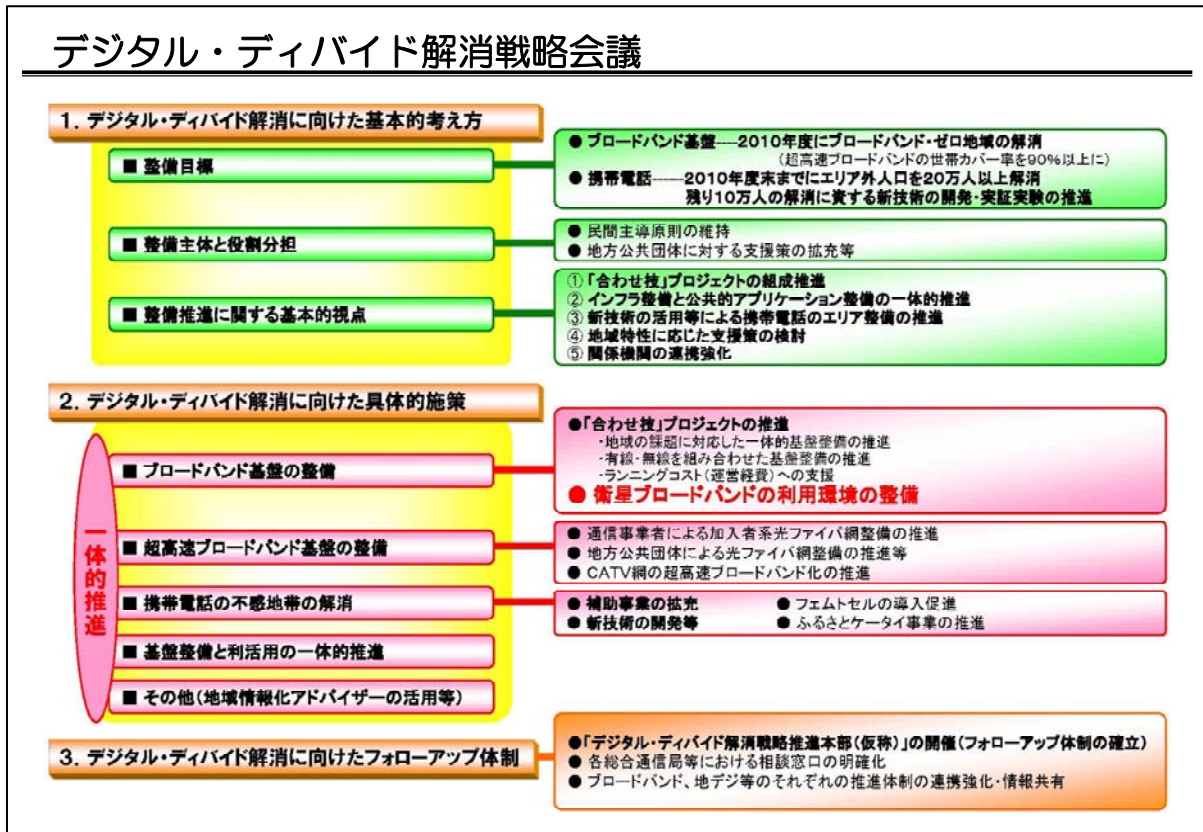


図 1-1-2 デジタル・ディバイド解消戦略会議について

1-2 北陸地域における ICT インフラ整備に関する取組みについて

北陸3県では、ブロードバンド・ゼロ地域の解消を計画的に推進していくために、県ごとに、地方自治体、電気通信事業者を構成員とする協議会を組織している。この協議会では、2010年度までのブロードバンド整備の工程表を策定するとともに、適宜、見直しを行っており、本工程表に基づき、計画的にブロードバンド整備を行っているところである。

		2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	
富山県	全体	100% (37.6万世帯)	100% (38万世帯)	※富山県は、2006年度末時点で既にブロードバンド・ゼロ地域が解消されている。			
	超高速 (内数)	53.7% (20.19万世帯)	55.4% (21.06万世帯)	55.5% (21.1万世帯)	56% (21.4万世帯)	59% (22.4万世帯)	80% (目標)
石川県	全体	95.0% (40.9万世帯)	96.0% (41.5万世帯)	96.7% (41.8万世帯)	99.6% (43.0万世帯)	99.6% (43.0万世帯)	100% (43.2万世帯)
	超高速 (内数)	68.7% (29.6万世帯)	71.0% (30.7万世帯)	74.3% (32.1万世帯)	78.3% (33.8万世帯)	84.3% (36.4万世帯)	87.6% (37.9万世帯)
福井県	全体	99.0% (25.7万世帯)	99.1% (25.7万世帯)	99.6% (26.6万世帯)	99.6% (26.6万世帯)	99.9% (26.6万世帯)	100% (26.7万世帯)
	超高速 (内数)	67.6% (17.5万世帯)	70.6% (18.3万世帯)	72.3% (19.3万世帯)	78.0% (20.8万世帯)	83.7% (22.3万世帯)	89.4% (23.9万世帯)

図 1-2-1 2010年度へ向けた北陸地方のブロードバンド整備の目標

1-3 北陸地域における ICT インフラ・サービスの状況について

北陸 3 県の ICT インフラの特徴としては、ケーブルテレビ網が発達していることである。例えば、富山県においては、県内全域で整備を完了している。ブロードバンドサービスについても、このケーブルテレビ網の利用が進んでおり、特に、富山県と福井県では、ケーブルテレビ網を利用したブロードバンドの世帯普及率は、全国でもそれぞれ第 2 位及び第 3 位である。

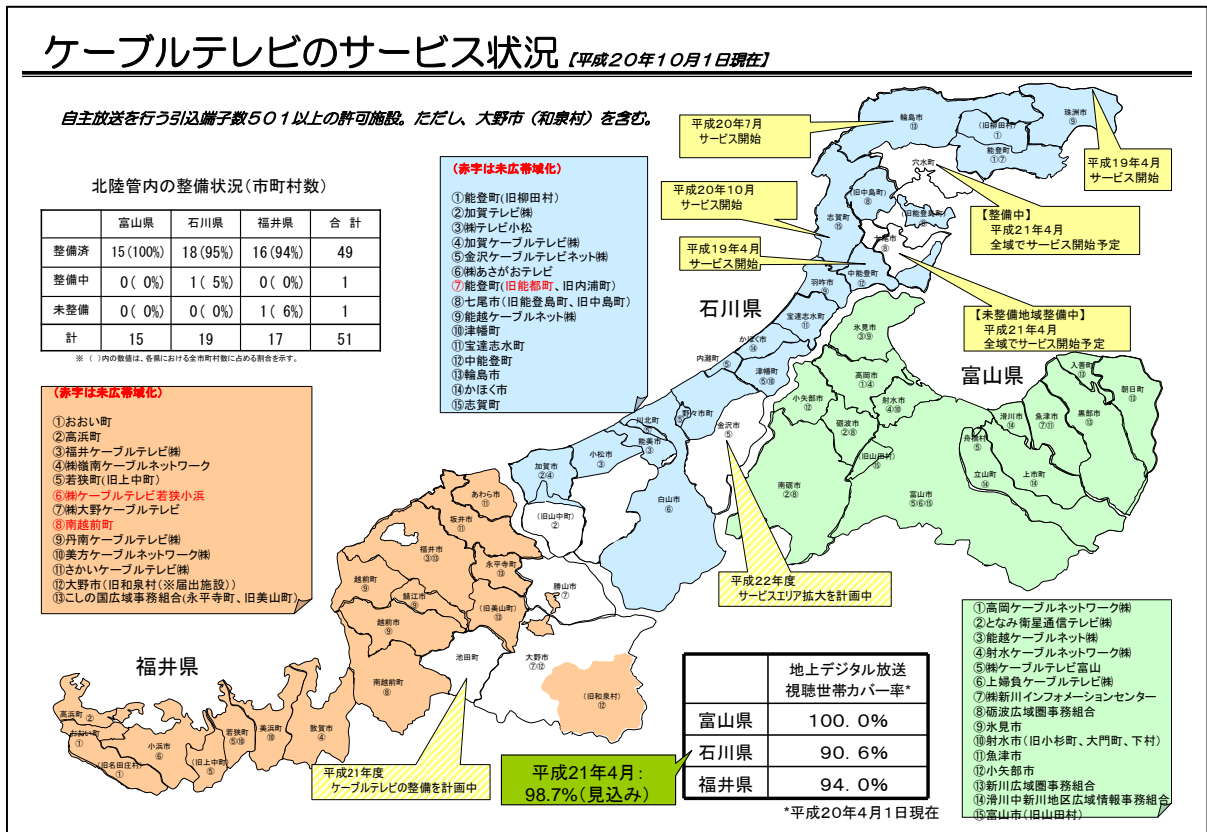


図 1-3-1 北陸 3 県におけるケーブルテレビのサービス状況

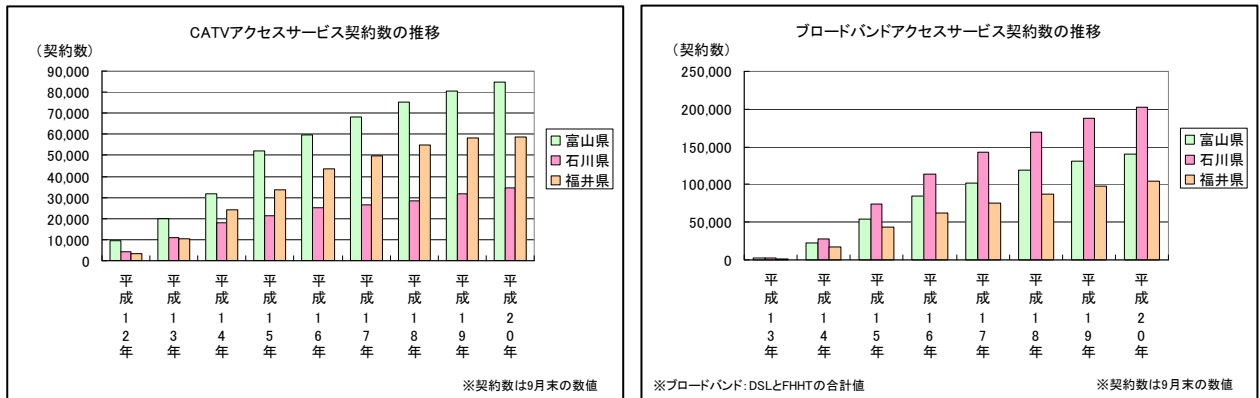


図 1-3-2 北陸 3 県における CATV・ブロードバンドアクセスサービス契約数の推移

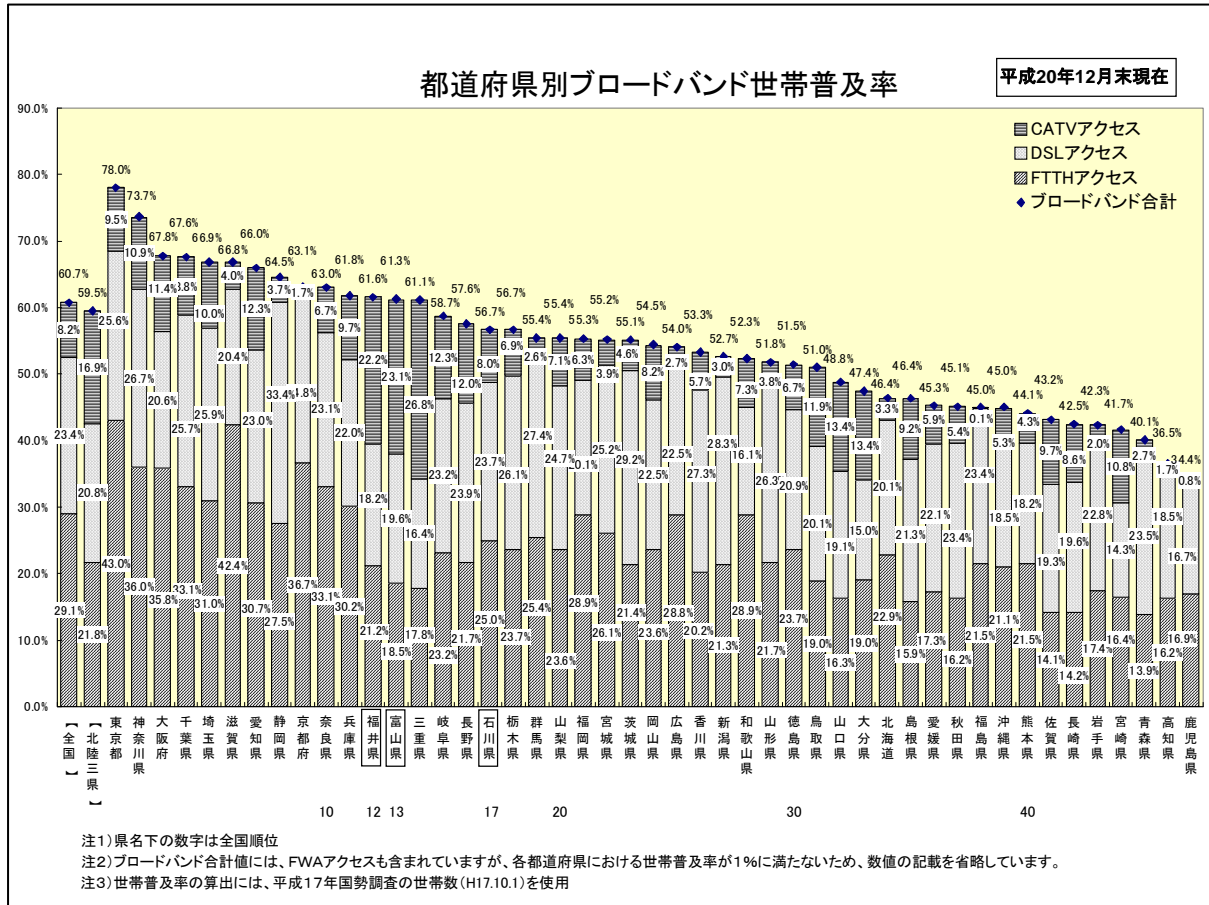


図 1-3-3 都道府県別ブロードバンド世帯普及率

第2章 能登地域におけるICTインフラの現状

2-1 ケーブルテレビ整備状況

能登7市町のうち、珠洲市、輪島市、中能登町、能登町の4市町は既にケーブルテレビ網の整備を完了しており、残りの3市町についてもケーブルテレビ網の整備が進み、平成21年4月には全市町でケーブルテレビが開局される予定である。

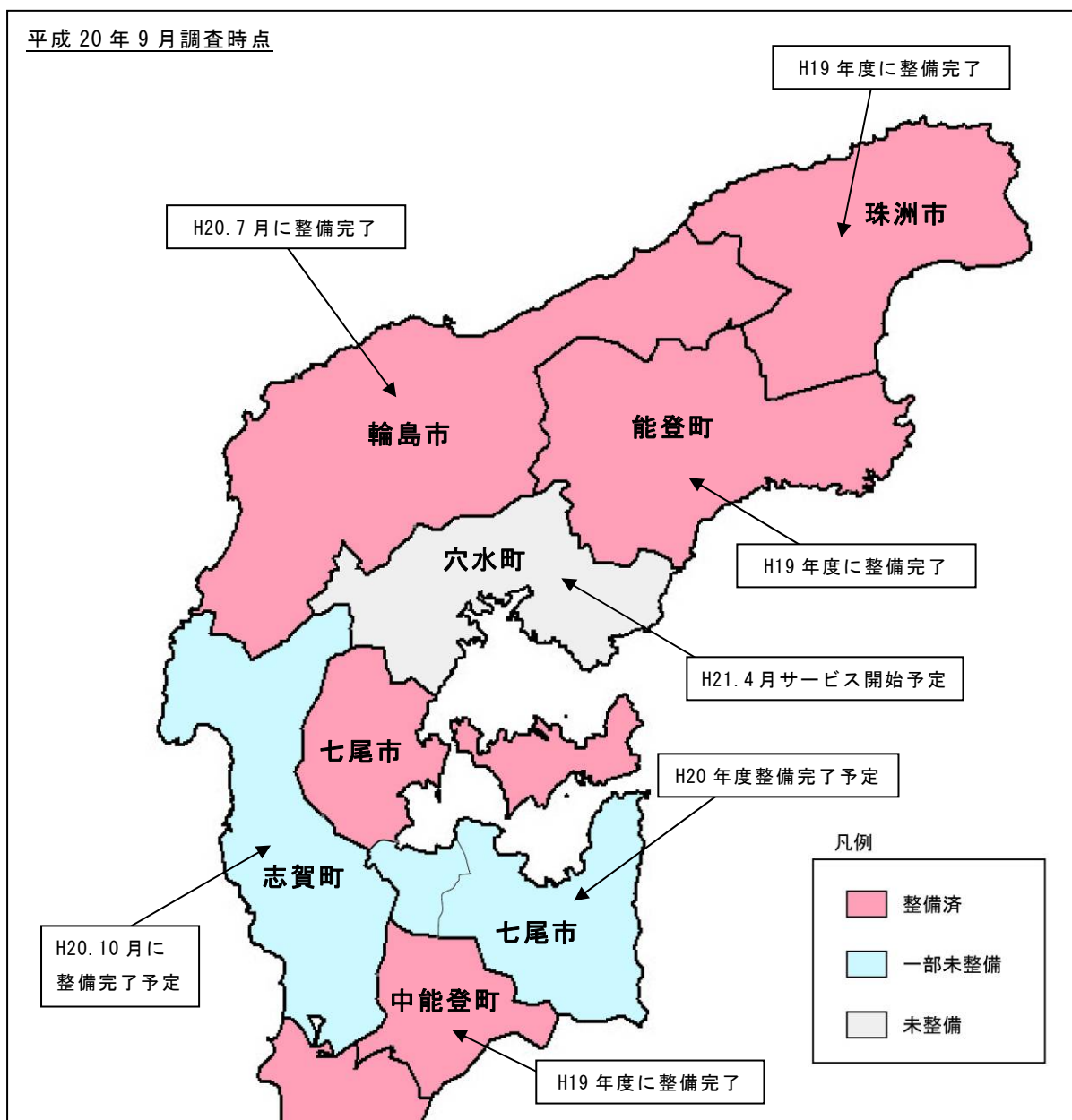


図2-1-1 能登地域におけるケーブルテレビ整備状況

2-2 ブロードバンド整備状況

HTNet-Ether とは、北陸通信ネットワーク(株)が提供する北陸三県を対象とした広域 Ethernet サービスで、北陸域内に張り巡らせた HTNet-Ether 網に拠点を接続することで、高速な拠点間通信を行うことができる。

能登地域における HTNet-Ether のサービスカバーエリアは、七尾市及び珠洲市の一部地域を除く全域にわたっており、事務所(30人以上)カバー率は 99.9%となる。



図 2-2-1 能登地域における HTNet-Ether サービスカバーエリア

表 2-2-1 各市町におけるケーブルテレビ・インターネット等の整備状況について（平成 20 年 9 月調査時点）

項目	七尾市	輪島市	珠洲市	志賀町	中能登町	穴水町	能登町	
ケーブルテレビ	(1) 伝送路整備方式	FTTH、HFC	HFC	HFC	FTTH	FTTH	HFC	
	(2) デジタル放送提供方式	地上デジタル放送対応	地上デジタル放送対応	地上デジタル放送対応	地上デジタル放送対応	地上デジタル放送対応	地上デジタル放送対応	
	地上波再送信	HD、パススルー、トラモジ ^(注)	HD、パススルー、トラモジ	パススルー、トラモジ	HD、パススルー、トラモジ	HD、パススルー、トラモジ	HD、パススルー、トラモジ	
	BS・CS	トラモジ	トラモジ	トラモジ	トラモジ	トラモジ	トラモジ	
	自主放送	SD	SD(HD可)	SD	HD、トラモジ	SD、アナログ、OFDM、トラモジ	SD	
	(3) デジタルヘッドエンド	有	有	無(羽咋受信局から伝送)	有	有	無	
	(4) スタジオ施設	有	有	有(週2日程度収録に使用)	有	有(月に6回程度収録に使用)	有	
	(5) 利用可能区域	能登島地区、中島町、瀬浦地区(H21.4月より全域)	全域	全域	第1期開局エリア(H20.10月より全域)	全域	— (H21.4月より全域)	
	(6) 加入率	70%(H19年度施工範囲)	52.8%	59.0%	85%	31.1%	20%	
	(7) 今後の整備予定	自主放送のHD化	—	自主放送のHD化	—	自主放送の多チャンネル化、HD化	—	
(8) 自主番組の制作頻度	毎日	適宜(文字放送のみ)	1回/週	1回/月(行政・生活情報等)	1回/2週(町内ニュース) 1回/月(各種情報番組)	1回/週(町内ニュース)		
(9) スタッフ数 (内数:制作スタッフ数)	15名 (うち、制作8名)	4名 (全員が制作ほか兼務)	10名(市職員1名、民間9名) (うち、制作2名)	7名 (全員が制作ほか兼務)	9名 (うち、制作4名)	2名 (制作は民間委託予定)		
インターネット	(10) 通信速度と料金	3Mbps : 4,557円/月 10Mbps : 5,082円/月 30Mbps : 5,607円/月	256kbps : 1,575円/月 10Mbps : 2,940円/月 30Mbps : 4,725円/月	4Mbps : 3,780円/月 8Mbps : 4,515円/月 30Mbps : 5,250円/月	100Mbps : 4,725円/月	1Mbps : 3,150円/月 3Mbps : 4,200円/月 10Mbps : 5,040円/月 100Mbps : 6,090円/月	4Mbps : 3,780円/月 8Mbps : 4,515円/月 30Mbps : 5,250円/月	10Mbps : 3,150円/月 30Mbps : 4,515円/月 ※柳田地区のみ 2,500円/月(10M)
	(11) 加入率	13%	9.8%	8.2%	15%	3.1%	—	
	(12) CATV インターネット以外のサービス状況	フレッツ光(最大100Mbps)、 フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)	フレッツADSL(最大47Mbps)、 Yahoo!BB(最大50Mbps)
その他	(13) 防災	CATV網を使用したIP音声告知端末(能登島地区)	CATV網を使用した告知端末・地震即時通報システム(市内全域)	—	CATV網を使用したIP音声告知端末(市内全域)	FTTH網を使用したIP音声告知端末(町内全域)	緊急情報等を文字情報で即時提供する予定	
	(14) 健康	バイタルセンサー(能登島地区)	—	—	—	—	—	
	(15) 産業	農業情報システム(能登島地区)	—	—	—	—	—	
	(16) その他	リクエストチャンネル(能登島地区)	データ放送	—	データ放送	—	—	
	(17) 導入予定のシステム	データ放送(H21年運用予定)	農業情報システム(H20年度)	告知システム	—	緊急地震速報システム	—	

注) トラモジ: トランスモジュレーション

第3章 ケーブルテレビのサービスの充実

ケーブルテレビは、基本的に契約者から利用料を徴収してサービスを提供するものであり、その点が、電波で地上放送を視聴する場合と異なる。対価を得ているといった観点から、視聴者に対して充実したサービスを提供し、電波で視聴している人との差別化を図っていくことが求められる。自主番組は、ケーブルテレビのサービスの特徴の1つであるが、自主番組の充実により、視聴者に対して、地域に密着した情報を提供することが可能となるなど、ケーブルテレビ独自のサービスを提供することが可能となる。本章では、はじめに能登地域（3市4町）におけるケーブルテレビ事業者の自主番組の制作状況・課題を分析する。そして、その分析を踏まえて実施した4つの試行実験について述べ、これらの実験が自主番組の充実に資するかどうかの分析を行った。さらに、自主番組の充実に関する他地域の取組み事例についても調査した。

3-1 自主番組の制作状況・課題

(1) 自主番組の制作状況

能登地域のケーブルテレビ局では、7市町のうち、6市町で自主番組を制作しており、来年4月に開局する穴水町も自主番組を制作・放映する予定としている。なお、現在、輪島市は文字放送のみの放送であるが、将来的にはコミュニティ番組等の制作に取り組む意向がある。

また、自主番組の制作頻度について、七尾市及び能登町では、毎日更新される番組も制作しているが、その他の番組については、週1回から月1回のペースで更新されている。

表 3-1-1 自主番組の制作状況（平成20年9月調査時点）

市町	自主番組	制作状況
七尾市	○	放送局のある能登島センターのスタッフ8名で、地域情報番組「ニコニコちゃんねる」や「七尾の祭り」等の自主番組の制作を行っている。
輪島市	△	本年4月よりサービスを開始した輪島市では、現在、自主番組は文字放送のみである。今後、運用が進めば、コミュニティ番組等の制作を行いたいと考えている。
珠洲市	○	民設民営方式のため、自主番組の制作は、基本的に民間会社に委託しているが、週に一度更新される「行政ニュース」については、珠洲市の職員が制作している。
志賀町	○	本年6月よりサービスを開始した志賀町では、健康・農林・環境等の6つの基本方針をコンセプトに自主番組を制作している。
中能登町	○	去年まではスタッフ4名で運用し、自主番組のほとんどが委託であったが、本年度からスタッフが9名となり、いくつか自主番組の制作を始めたところである。
穴水町	—	来年4月よりサービス開始予定の穴水町では、民設民営方式で整備を進めているため、番組制作も民間会社に委託予定であるが、町としても情報の提供等を行い、番組制作に協力していきたいと考えている。
能登町	○	能登町では、毎日更新する「のとはっとらいん」等の自主番組の制作を行っている。なお、旧柳田村では電話回線を使って好きな時に番組を視聴できる「リクエストチャンネル」というサービスを行っているが、このサービスは他の地区では利用できないため、代わりに再放送（再編集）番組を週末に放送している。

七 尾 市

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
ニコニコちゃんねる	議会中継等の行政情報からイベント、行事、身近な生活情報まで多種多様な番組を放送	毎日	10分～1時間 (取材の内容により異なる)
ニコニコちゃんねる	イベント、行事、身近な生活情報をニュースとして放送	取材があれば放送	2分程度
ニコニコたいそう	運動不足の解消を目的に、インストラクターによるエアロビクスや軽度な運動を放送	なし	5分程度
七尾の祭り	七尾市内で行われている代表的な祭りを放送	1週間	20分程度
文字放送	広報に掲載するような情報や放送スケジュール等を番組と番組の間に文字でお知らせ	毎日	1つの案内に 15～20秒程度

【番組映像】



でか山模型除幕式
(平成19年11月放送)



金ヶ崎公民館
『門松作り教室』
(平成19年12月放送)



中島町公民館句会
(平成20年4月放送)

提供：ケーブルテレビななお

【撮影風景】



スタジオ



取材風景



能登島センター

提供：ケーブルテレビななお

輪 島 市

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
文字放送	行政情報等	適宜	24時間
議会中継	議会中継	議会開会中	議会終了まで

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】

* 24時間文字放送のみ（議会開会の場合を除く）

珠 洲 市

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
すずニュース	市内の出来事取材し放送	週1回	約10分
行政ニュース	市役所内の出来事を放送	週1回	約5分
がんばっています	市内各サークルの紹介	週1回	約15分
すずっこクラブ	小中高のクラブを紹介	週1回	約15分
読売新聞ニュース	富山、石川のニュース	2週に1回	約20分
すずスペシャル	イベントの様子を放送	週1回	40分
ラポルトニュース	ラポルトすずで行われる行事の告知、行われた様子を放送	月1回	30分
文字放送	市、団体からのお知らせ	限定なし	
防災文字情報	警報等のお知らせ		
議会中継	生中継	議会ごと	開会～閉会

【番組映像（すずニュース）】



「のとキリシマツツジ開花」
（平成20年5月放送）

提供：能越ケーブルネット株式会社



「飯田燈籠山まつり」
（平成20年7月放送）



「第10回 Jr. トライアスロン珠洲大会」
（平成20年8月放送）

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】

9ch すずチャンネル 平成 20 年 9 月 15 日(月)～9 月 21 日(日) 週間番組表

9/15(月)	9/16(火)	9/17(水)	9/18(木)	9/19(金)	9/20(土)	9/21(日)	
5 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.速報！記者会見 55.NEWS TOP10	放送 設備点検	朝日ニュースター 00.速報！記者会見 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.速報！記者会見 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.よみがえれニッポン evolution	5
6 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	30.CM INDEX	6
7 00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.NEWS MORNING	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.NEWS MORNING	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.NEWS MORNING	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	7
8 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.やじうまプラス	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.やじうまプラス 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 35.NEWS TOP10 45.やじうまプラス 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.キラリ☆すず 朝日ニュースター 30.キッズニュース 45.世界ベスト紀行 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	8
9 朝日ニュースター 00.やじうまプラス	00.珠洲市議会生中継 9月定例会一般質問	朝日ニュースター 00.やじうまプラス	朝日ニュースター 00.やじうまプラス	朝日ニュースター 00.やじうまプラス	朝日ニュースター 00.やじうまプラス	朝日ニュースター 00.やじうまプラス	9
10 00.NEWS 15.ショッピング情報 30.キラリ☆すず	00.NEWS 15.ショッピング情報 30.キラリ☆すず	00.NEWS 15.ショッピング情報 30.キラリ☆すず	00.NEWS 15.ショッピング情報 30.ビジネスキャラー 40.株式ワイド！	00.NEWS 15.ショッピング情報 30.キラリ☆すず	朝日ニュースター 00.愛川欽也 バックイ ジャーナル	朝日ニュースター 00.武田鉄也の週刊鉄 55.NEWS 朝日ニュースター 00.もうひとつの日本 30.キラリ☆すず	10
11 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.テレメンタリー2008 30.キラリ☆すず	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.武田鉄也の週刊鉄 55.NEWS 朝日ニュースター 00.もうひとつの日本 30.キラリ☆すず	朝日ニュースター 00.武田鉄也の週刊鉄 55.NEWS 朝日ニュースター 00.もうひとつの日本 30.キラリ☆すず	11
12 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	12
13 朝日ニュースター 00.竹中平蔵・上田晋 ニッポンの作り方 30.各党はいま	終了まで生中継	朝日ニュースター 00.南海キャンディーズ 山ちゃんのジャーナル しちやうぞ！	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	13
14 朝日ニュースター 00.武田鉄也の週刊鉄	朝日ニュースター 00.速報！記者会見	朝日ニュースター 00.速報！記者会見	朝日ニュースター 00.速報！記者会見	朝日ニュースター 00.速報！記者会見	朝日ニュースター 00.よみがえれニッポン	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	14
15 朝日ニュースター 00.いきいき！夢キラリ 30.キラリ☆すず	35.ショッピング情報 50.株式ワイド 10.微不至の部屋 30.キラリ☆すず	30.キラリ☆すず 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	35.ショッピング情報 50.株式ワイド 10.微不至の部屋 30.キラリ☆すず	30.キラリ☆すず 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	30.CM INDEX	55.NEWS 00.キッズニュース 15.世界ベスト紀行 30.キラリ☆すず	15
16 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	朝日ニュースター 00.各党はいま 30.キラリ☆すず	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	16
17 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	17
18 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.各党はいま 30.キラリ☆すず	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	18
19 00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	19
20 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	30.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	20
21 00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず 00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	21
22 朝日ニュースター 30.ニュースの深層 evolution 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	00.キラリ☆すず	朝日ニュースター 30.ニュースの深層 evolution 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 30.NEWS TODAY	朝日ニュースター 30.ニュースの深層 evolution 00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 30.愛川欽也 バックイ ジャーナル	朝日ニュースター 30.デモクラシーNOW	22
23 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	23
0 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずスペシャル 八木ピアノ教室 「PIANO LITTLE CONCERT」 (8月9日開催 ラポルトすず)	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	0
1 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	1
2 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	2
3 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	3
4 朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	00.すずニュース 行政ニュース 読売新聞です	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.星浩の2R	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution 55.NEWS TOP10	朝日ニュースター 00.痛快！おんな組	朝日ニュースター 00.ニュースの深層 evolution	4

志 賀 町

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
やすらぎテレビ	健康情報、福祉情報等	月1回程度	約30分
いきおいテレビ	商工農林水産業、企業情報等	月1回程度	約30分
うるおいテレビ	生活環境、ライブラリー番組等	月1回程度	約30分
かがやきテレビ	生涯学習、教育関係情報等	月1回程度	約30分
ふれあいテレビ	住民参加型コミュニティ情報等	月1回程度	約30分
みらいテレビ	子育て、保育園、小中学校情報等	月1回程度	約30分
町議会中継、防災情報、緊急情報、原子力関連情報、その他の情報	町議会中継、防災情報、緊急情報、原子力関連情報、その他の情報等を随時放送する。	随時	約30分
北陸電力発電所情報		月1回程度	約10分

【番組映像】



「やすらぎテレビ」



「いきおいテレビ」



「うるおいテレビ」



「かがやきテレビ」



「ふれあいテレビ」



「みらいテレビ」

提供：SCN 志賀町ケーブルテレビネットワーク

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】

志賀町自主放送番組
基本番組表

志賀町自主放送番組
基本番組表（つづき）

時間	アナログ、デジタル放送		デジタルデータ放送
6:00	映像放送	6:00	①やすらぎテレビ
6:30	文字放送	6:30	
		6:55	北陸電力発電所情報
7:00	映像放送	7:00	②いきおいテレビ
7:30	文字放送	7:30	
		7:55	北陸電力発電所情報
8:00	映像放送	8:00	③うるおいテレビ
8:30	文字放送	8:30	
		8:55	北陸電力発電所情報
9:00		9:00	北國新聞ニュース
9:30	映像放送		
10:00	映像放送	10:00	④かがやきテレビ
		10:30	
		10:30	北陸電力発電所情報(映像)
10:40	文字放送	10:40	志賀町文字放送
		10:55	北陸電力発電所情報
11:00	映像放送	11:00	⑤ふれあいテレビ
11:30	文字放送	11:30	
		11:55	北陸電力発電所情報
12:00	映像放送	12:00	⑥みらいテレビ
12:30	文字放送	12:30	
		12:55	北陸電力発電所情報
13:00		13:00	北國新聞ニュース
13:30	映像放送		
14:00	映像放送	14:00	①やすらぎテレビ
		14:30	
		14:30	北陸電力発電所情報(映像)
14:40	文字放送	14:40	志賀町文字放送
		14:55	北陸電力発電所情報
15:00	映像放送	15:00	②いきおいテレビ
15:30	文字放送	15:30	
		15:55	北陸電力発電所情報
16:00	映像放送	16:00	③うるおいテレビ
16:30	文字放送	16:30	
		16:55	北陸電力発電所情報

6:00
~
翌1:00

時間	アナログ、デジタル放送		デジタルデータ放送
17:00	映像放送	17:00	④かがやきテレビ
17:30	文字放送	17:30	
		17:55	北陸電力発電所情報
18:00	映像放送	18:00	⑤ふれあいテレビ
18:30	文字放送	18:30	
		18:55	北陸電力発電所情報
19:00	映像放送	19:00	⑥みらいテレビ
19:30		19:30	
20:00	映像放送		北國新聞ニュース
20:30	文字放送	20:30	志賀町文字放送
		20:55	北陸電力発電所情報
21:00	映像放送	21:00	①やすらぎテレビ
		21:30	
		21:30	北陸電力発電所情報(映像)
21:30	文字放送	21:40	志賀町文字放送
		21:55	北陸電力発電所情報
22:00	映像放送	22:00	②いきおいテレビ
22:30	文字放送	22:30	
		22:55	北陸電力発電所情報
23:00	映像放送	23:00	③うるおいテレビ
23:30	文字放送	23:30	
		23:55	北陸電力発電所情報
0:00		0:00	北國新聞ニュース
0:30	映像放送		

6:00
~
翌1:00

■ 定時番組

- ①やすらぎテレビ 健康情報、福祉情報等
- ②いきおいテレビ 商工農林水産業、企業情報等
- ③うるおいテレビ 生活環境、ライブラリー番組等
- ④かがやきテレビ 生涯学習、教育関係情報等
- ⑤ふれあいテレビ 住民参加型コミュニティ情報等
- ⑥みらいテレビ 子育て、保育園、小中学校情報等

■ 随時番組

町議会中継、防災情報、緊急情報、原子力関連情報、その他の情報

中 能 登 町

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
なかのと四季物語	町の四季折々の映像や風景、見所スポット等の紹介	随時	10分程度
番組ガイド	なかのとチャンネルの番組紹介	月1回	5分程度
なかのとナウ情報館	最新の町内でのニュース	1週間	10分程度
知って〇得！町の情報便	行政情報、生活情報	月1回	15分程度
広報なかのと	広報なかのとの紹介	月1回	10分程度
なかのと「げんキッズ」	保育園、小学校の行事の様子	月1回	15分程度
地域映像	特別収録編集番組	随時	15～60分程度
議会中継	議会の内容を生中継	議会開催時	開会～閉会

【番組映像】



なかのとスペシャル
「プレイバックなかのと 2007」
(平成20年4月放送)



なかのとスペシャル
「ウォーキング特集」
(平成20年5月放送)



「なかのと四季物語」
(平成20年5月放送)

提供：中能登町ケーブルテレビネットワーク

【放送施設】



中能登町ケーブルテレビネットワーク
放送センター



中能登町ケーブルテレビネットワーク
放送センター内スタジオ

提供：中能登町ケーブルテレビネットワーク

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】



■ケーブルテレビに関するお問い合わせは
中能登町情報推進課
(ケーブルテレビ放送センター)
TEL 76-2437 FAX 76-8080

※ケーブルテレビの取材希望がございましたら、お気軽にお問い合わせください。



■ 共通チャンネル

- | | |
|------------------------|---------------------|
| 1ch (D - ch) 北國新聞ニュース | 2ch (D - ch) QVC |
| 3ch (D - ch) お天気・金沢競馬 | 4ch (D011ch) NHK総合 |
| 5ch (D091ch) なかのとチャンネル | 6ch (D061ch) 北陸放送 |
| 7ch (D - ch) - | 8ch (D021ch) NHK教育 |
| 9ch (D - ch) ときめきQ | 10ch (D041ch) テレビ金沢 |
| 11ch (D051ch) 北陸朝日放送 | 12ch (D081ch) 石川テレビ |



9月の番組案内

「子どもたちの笑顔から、生きいきとしたお年寄りの姿まで」
なかのとチャンネルは、アナログ5ch 地上D 091 CATV 036で放送中!!

時間帯	番組名	内容
6:00	すくすく健康ひろば	① 自分でできるがん予防 9月26日～
6:30	図書館へ行こう	② 鹿島図書館(～9/15)、鹿西図書館(～9/31)
7:00	なかのとニュース	③ 町の行事や身近な話題など 半月更新
7:30	なかのと「げんキッズ」	④ お茶会(さくら保育園) 9月19日～
8:00	なかスポTV	① 石川県体育大会の結果・お知らせなど
8:30	知ってO得! 町の情報便	② 西馬場分譲宅地が販売開始! 9月16日～
9:00	北國新聞ニュース エリアニュース	土・日は「なかのとスペシャル」
10:00	なかのとプレイバック (再放送)	過去の番組 (スポーツレクリエーション祭2007)
11:00	スクールトピックス	③ 校内主張大会(鳥屋中)、水泳交歓会など
11:30	なかのとニュース	④ 町の行事や身近な話題など 半月更新
12:00	なかのとスペシャル	① 保育園夏祭り特集 ～9月29日
12:30	ふるさと農林業体験(第3回)	② 第4回織姫夏ものがたり 9月29日～
13:00	北國新聞ニュース エリアニュース	子どもたちが農林業や食を学びます 9月12日～
14:00	知ってO得! 町の情報便	① ほっと安心サービスがはじまりました 9月12日～
14:30	図書館へ行こう	② 鹿島図書館(～9/15)、鹿西図書館(～9/30)
15:00	なかのとプレイバック (再放送)	過去の番組 (スポーツレクリエーション祭2007)
16:00	すくすく健康ひろば	① 自分でできるがん予防 9月26日～
16:30	スクールトピックス	② 校内主張大会(鳥屋中)など
17:00	なかスポTV	③ 石川県体育大会の結果・お知らせなど
17:30	なかのと「げんキッズ」	④ お茶会(さくら保育園) 9月19日～
18:00	なかのとスペシャル	① 保育園夏祭り特集 ～9月29日
18:30	ふるさと農林業体験(第3回)	② 第4回織姫夏ものがたり 9月29日～
19:00	なかのとニュース	③ 町の行事や身近な話題など 半月更新
19:30	北國新聞ニュース	
20:00	知ってO得! 町の情報便	② 西馬場分譲宅地が販売開始! 9月16日～
21:00	なかのと「げんキッズ」	③ お茶会(さくら保育園) 9月19日～
21:30	スクールトピックス	④ 校内主張大会(鳥屋中)、水泳交歓会など
22:00	なかスポTV	① 石川県体育大会の結果・お知らせなど
22:30	知ってO得! 町の情報便	② ケーブルテレビ加入促進第2弾キャンペーン
23:00	文字放送	
0:00	北國新聞ニュース	

📺 なかのとスペシャル (12時～、18時～)

- ・保育園夏祭り特集
- ・第4回織姫夏ものがたり

📺 なかのとニュース (7時、11時30分、19時)

📺 知ってO得!

町の情報便

(8時30分、14時、20時30分、22時30分)

📺 なかのと「げんキッズ」 (7時30分、17時30分、21時)

📺 すくすく健康ひろば (6時、16時)

📺 図書館へ行こう (6時30分、14時30分)

📺 なかスポTV (8時、17時、22時)

📺 スクールトピックス (11時、16時30分、21時30分)

📺 ふるさと農林業体験 (12時30分、18時30分)

※下記の番組については、通常の番組を変更してお送りします。

📺 裁判員制度

- ・9月16日 11時～、17時～
- ・9月30日 11時～、17時～

新番組は、裏面を!

※都合により放送時間、放送内容を変更する場合があります

※各番組終了後、下記①～④の番組が流れます。

①くらしの連絡帳、②番組ガイド、③広報なかのと、④なかのと四季物語

穴 水 町

【主な番組（予定）】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
週刊ニュース	町でおこった出来事等を取材し週単位で放送予定	週1回	20分
行政ニュース	町の各課担当者による町からのお知らせ等を放送予定	週1回	10分
文字ニュース	町内の各機関や各種団体からのお知らせ等を文字で放送予定	週1回	5分
未定	講演会やイベント等を収録し放送予定		60分～120分
未定	町内のサークル、学校等の紹介番組		30分～60分

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】

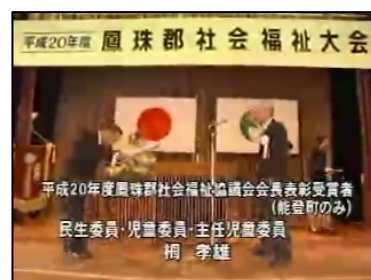
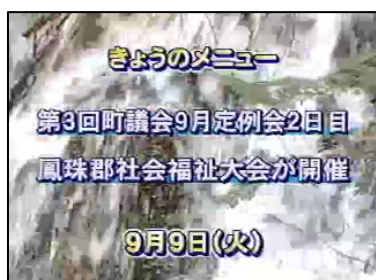
* 2009年4月開局予定のため未定

能 登 町

【主な番組】

番組名	番組の内容	更新頻度	時間(分)
のとほっとらいん	町内での行事や出来事を毎日定時にニュースとして放送	毎日	10分～30分
きらきらチャンネル	議会や祭りの模様、及び活力ある町づくりに役立つ番組	最低、月に1番組	30分程度(議会は2時間以内)
とくとくたいむ	行政関係団体や番組提供を契約している団体から送られてくる番組を放送	1週間放送し、それ以後は放送しない	30分～1時間程度
※特別番組	日本各地の祭りやイベントを、衛星を介して受信し、1日1回放送	受信する時間のみ	土曜日 13時～15時

【番組映像（のとほっとらいん）】



提供：能登町

【自主放送チャンネルのタイムテーブル】

能登町コミュニティ放送(10ch)タイムテーブル 平成20年3月31日～

時	分	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日	
5	00								
6	00	みんないっしょにラジオ体操							
	35	のどほっとらいん(再放送)							
7	00	農林水産気象情報							
	30	まちむらNOW							
8	00	農政番組							
	30	日曜リクエスト							
9	00	のびのびかんたん! みんなで体操							
	30	里からの便り							
10	00	とくとくたいむ / きらきらチャンネル(月曜のこの時間が初回放送)							
	30	日曜リクエスト							
11	00	のどほっとらいん(再放送)							
	30								
12	00	JA番組							
	30	のどほっとらいん(再放送)							
13	00								
	30	全国CATV 北から南から							
14	00	週刊のどほっとらいん (2週前)							
	30								
15	00	のびのびかんたん! みんなで体操							
	30								
16	00	とくとくたいむ / きらきらチャンネル(再放送)							
	30	日曜リクエスト							
17	00								
	30	農林水産気象情報							
18	00								
	30	のどほっとらいん(初回放送、再放送は翌日まで)							
		週刊のどほっとらいん (1週前)							
19	00	のどほっとらいん(再放送)							
	30	日曜リクエスト							
20	00	とくとくたいむ / きらきらチャンネル(再放送)							
	30	日曜リクエスト							
21	00								
	30	のどほっとらいん(再放送)							
		日曜リクエスト							
22	00	とくとくたいむ / きらきらチャンネル(再放送)							
	30								
23	00								
	30	のどほっとらいん(再放送)							
0	00								
	30								
1	00								
	30								
2	00	放送終了							

※番組と番組の間の時間には文字放送『テレビかわら版』で様々な情報をお伝えしています。

(2) 自主番組充実のための課題

(1)で示されたように、能登7市町のケーブルテレビ局では、サービス充実の一環として、自主番組の制作に取り組んでいる。しかしながら、各ケーブルテレビ局は、NHKや民放局に比べ小規模経営であり、自主番組の制作スタッフも少数で運営されている。よって、撮影から編集、原稿作成から番組放出過程まで、一人のスタッフへの負担は、他の放送局よりもはるかに高いのが現状である。

能登地域のケーブルテレビ局担当者に対し、自主番組充実のための課題について調査したところ、「人材・機材の充実」、「情報源の確保」、「肖像権」や「議会中継への対応」などの意見が挙げられた。これらの課題は、小規模経営による人員面・財政面での問題が主な要因と考えられる。

また、ケーブルテレビ局担当者に対し、自主番組を充実させるための方策について調査したところ、「各担当エリアに限定されない共通して楽しめるコンテンツ制作」、「視聴者がいつでも再視聴可能な番組のアーカイブ化」、「地域活性化に寄与できる地元商店街等とのタイアップ番組の制作」などの意見が挙げられた。

表 3-1-2 自主番組充実のための課題と方策

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ レポーター・スタッフの育成（行政の人事異動問題含む） ・ 機材・人員配置などの財政的な厳しさ ・ 情報源の確保（情報収集が徹底していない） ・ 卒業式・運動会などのイベント時の子どもの肖像権に関する承認 ・ 議会中継の受け入れに関する議員側の温度差
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 局所的な地域を限定しない、共通して楽しめるコンテンツの制作 ・ いつでも再視聴可能な番組のアーカイブ化 ・ 地域活性化のための地元商店街等のタイアップ番組の制作

3-2 能登地域内で自主番組の交換・共同制作を行うことについて

ケーブルテレビ局が提供する地域情報は、地域のコミュニケーション機能を向上させる上で重要な役割を担っており、他のマスメディアが果たすことのできないサービスの1つである。

現在、能登7市町では各ケーブルテレビ局が担当エリア（市町単位）の情報を自主番組で放送しているが、各局が抱える人的・予算的な問題に負荷をかけることなく、自主番組を充実させるための方策としては、能登地域内での自主番組の相互流通が考えられる。

自主番組の相互流通は、コンテンツの充実の他にも、「情報の共有化による市町間の交流促進」、「生活圏における情報ニーズの拡大」、「地域産業の活性化支援」などにも貢献できると考えられ、広域化する視聴者ニーズにうまくマッチングして能登地域全体の活性化につながることを期待される。

また、実際に自主番組の相互流通を行った場合には、「統合・編集作業の負担増加」、「各局の制作能力のばらつき」、「費用分担」、「制作責任の所在」などが課題になるものと考えられる。これらの想定される課題を踏まえ、能登地域内での自主番組の相互流通の有用性を検証するため、試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」の制作・放映を実施した。

表 3-2-1 能登地域内での自主番組の相互流通の意義と課題

意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登全体の情報の共有化による市町間の交流促進 ・ 生活圏（通勤・通学圏）における情報ニーズの拡大 ・ 商店街等の地域産業の活性化支援
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持ち回り制による制作負担の増加 ・ フォーマットの統一化（ナレーション、放送時間等） ・ 各局の制作能力のばらつき ・ 費用分担 ・ 制作責任の明確化

(1) 試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」の制作・放映

能登7市町が、それぞれの市・町の情報を持ち寄り、試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」を共同制作するとともに、自主放送枠での番組放映を実施した。

a) コンテンツ①：「能登半島スペシャル ～能登はまつりの玉手箱～」

- ・ 能登7市町で開催される「祭り」に関する魅力発信のためのコンテンツを制作
- ・ 放映時期：8月中旬

表 3-2-2 コンテンツの流れ

映像担当	内容	時間
七尾市	オープニング	1:25
珠洲市	飯田燈籠山祭り／宝立七タキリコまつり	3:35
輪島市	曳山祭／輪島大祭	1:00
穴水町	長谷部まつり	1:48
能登町	あばれ祭	1:33
志賀町	西海祭り	1:41
七尾市	向田の火祭／石崎奉燈祭／お熊甲祭	3:14
中能登町	石動山開山祭	2:35
七尾市	エンディング	0:29
合計		17:20



b) コンテンツ②：「能登半島インフォメーション」

- ・ 能登 7 市町で開催される「イベント」を紹介するためのコンテンツを制作
- ・ 放映時期：8 月下旬

表 3-2-3 コンテンツの流れ

映像担当	内容	時間
七尾市	オープニング	1:12
輪島市	輪島かにまつり/そばの市/千枚田結婚式/ ゆく年くる年	2:36
中能登町	能登王墓の出土品展	3:04
能登町	JPTA 能登国際女子オープンテニス 2008	1:40
珠洲市	蛸島キリコ祭り/カフェライブスペシャル	3:18
志賀町	第 16 回大念寺子供太鼓打競技大会/ 第 76 回県下太鼓打競技大会	1:30
七尾市	エンディング	0:28
合計		13:48



(2) 有用性の検証

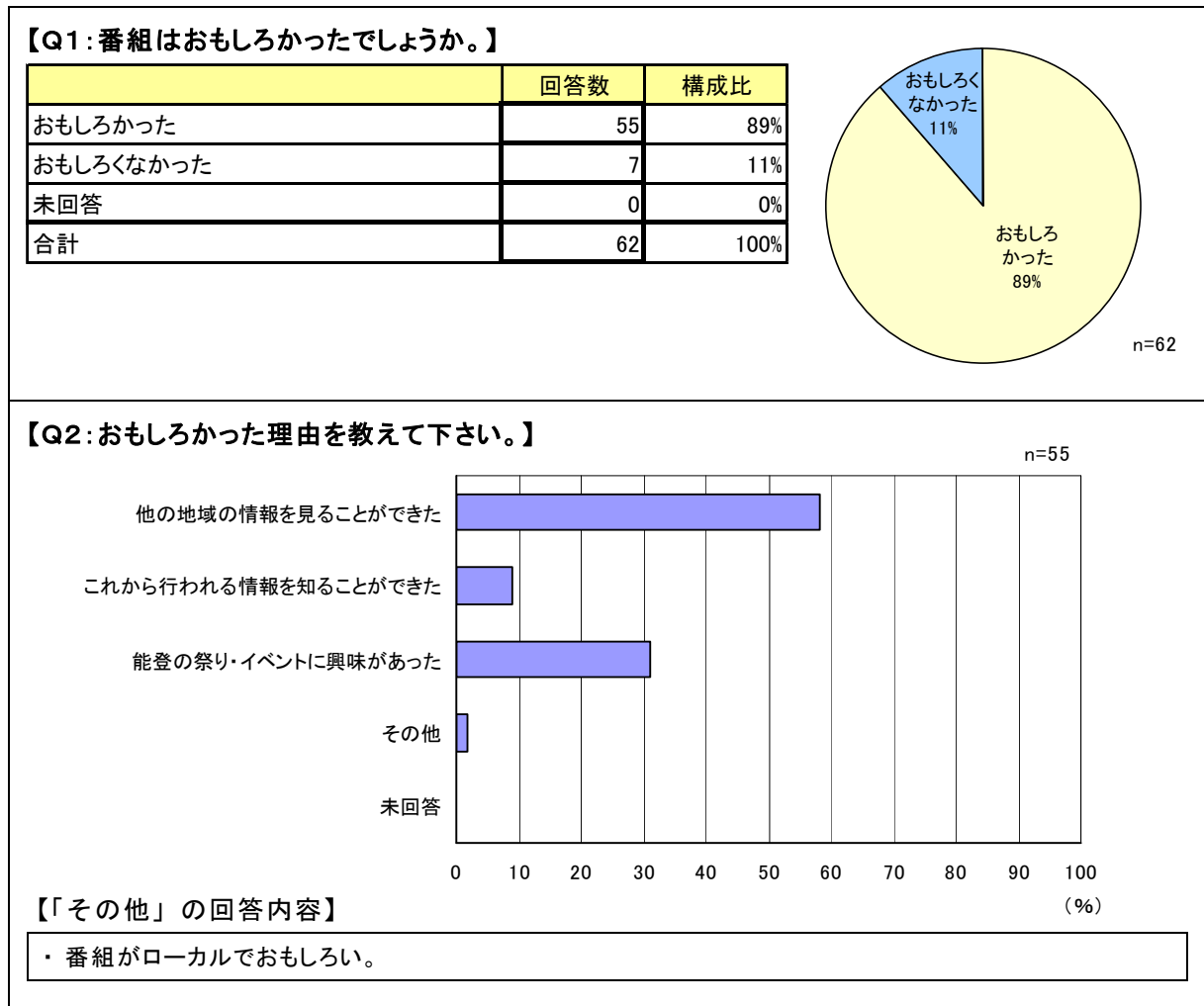
能登半島ヘッドラインの有用性を検証するため、ケーブルテレビ視聴者に対するアンケート調査及び各局担当者の意見収集を実施した。

a) 視聴者アンケート

能登半島ヘッドラインに対する視聴者の満足度及びニーズを調査するため、各局視聴者に対するアンケート調査を実施した。なお、ケーブルテレビ局が開局していない穴水町については、番組を納めたDVDを視聴してもらい、アンケートを回収した。

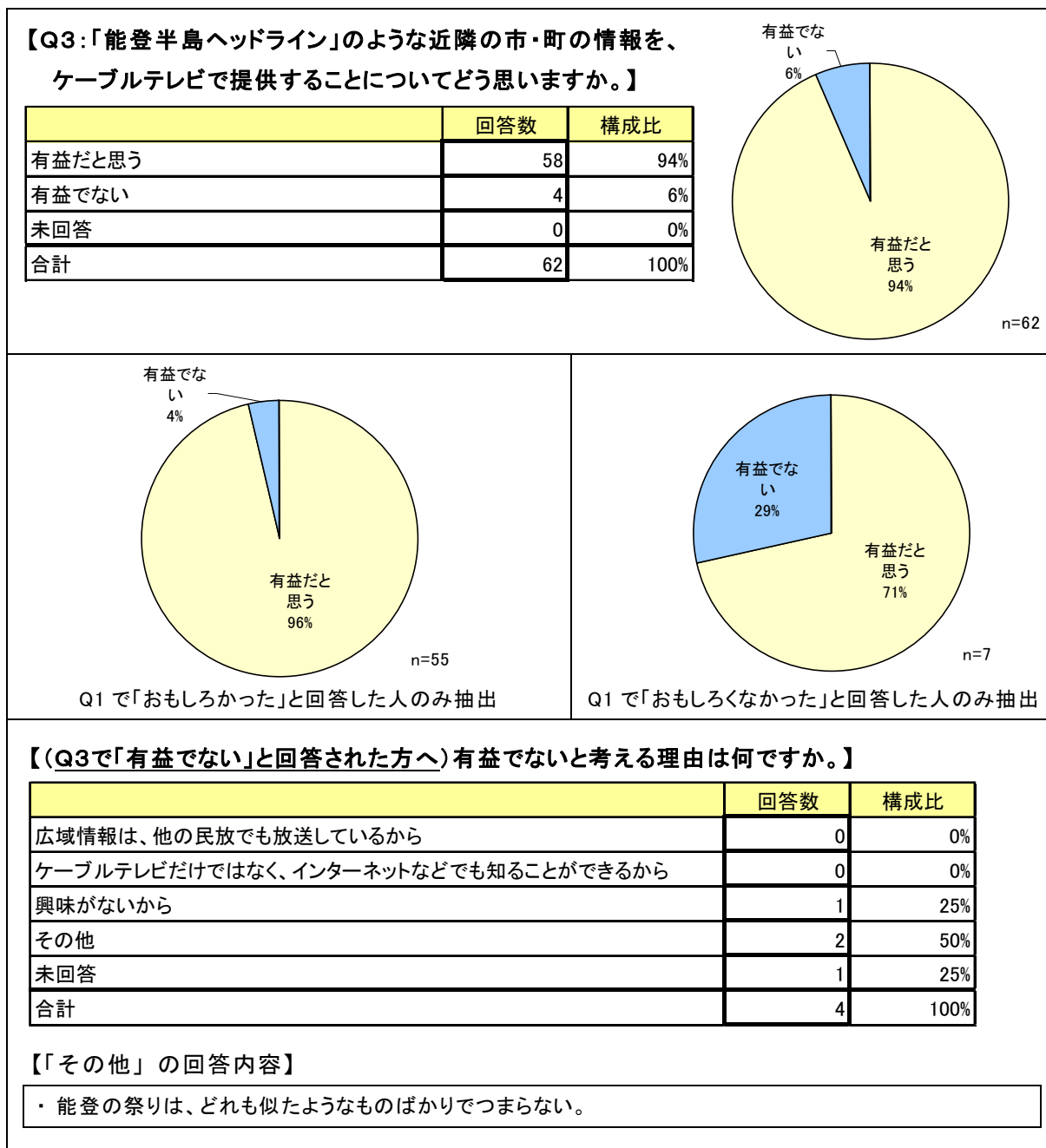
ア. 視聴者満足度

能登半島ヘッドラインの放映内容については、約9割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、満足度としては非常に高い結果となった。また、能登半島ヘッドラインを「おもしろかった」と回答した視聴者が満足した理由として挙げたものは、「他の地域の情報を見ることができた」が全体の約6割を占め、次いで「能登の祭り・イベントに興味があった」が全体の約3割を占めた。



イ. 番組の有益性

能登半島ヘッドラインの有益性については、9 割以上の視聴者が「有益だと思う」と回答した。また、Q1 で「おもしろくなかった」と回答した視聴者においても、約 7 割は番組の有益性を認めていた。

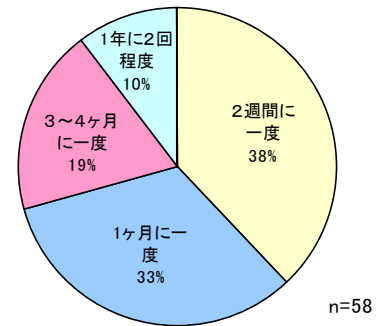


ウ. 番組の更新頻度

広域情報番組の更新頻度としては、「2週間に一度」または「1ヶ月に一度」が適当と考える視聴者が全体の約7割を占めた。

【Q4: (Q3で「有益だと思う」と回答された方へ) 広域情報番組の放送の更新頻度は、どのくらいが適当と考えますか。】

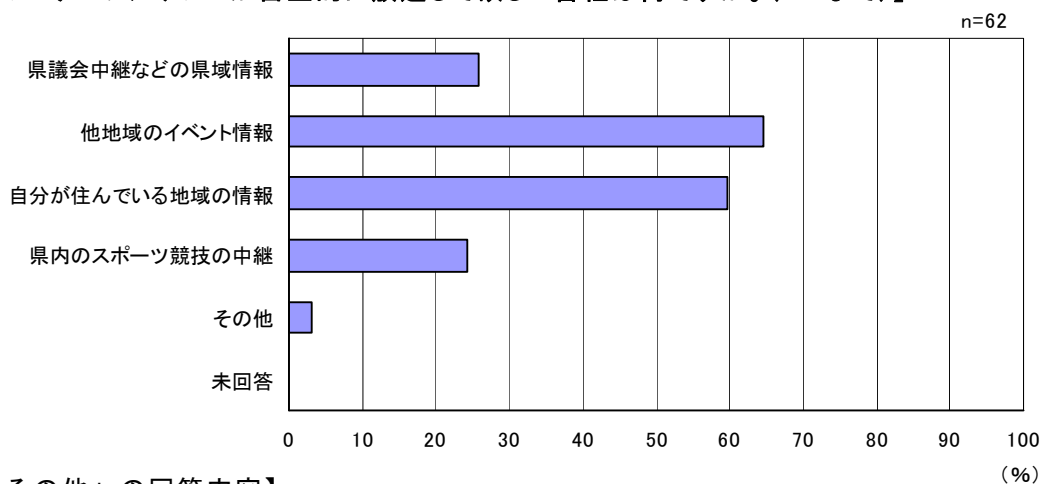
	回答数	構成比
2週間に一度	22	38%
1ヶ月に一度	19	33%
3~4ヶ月に一度	11	19%
1年に2回程度	6	10%
未回答	0	0%
合計	58	100%



エ. 放映内容に関するニーズ

ケーブルテレビが自主的に放送して欲しい番組として視聴者が挙げたものは、「他地域のイベント情報」及び「自分が住んでいる地域の情報」が全体の約6割を占め、次いで「県議会中継等の県域情報」及び「県内のスポーツ競技の中継」が全体の2割以上を占めた。

【Q5: ケーブルテレビが自主的に放送して欲しい番組は何ですか。(2つまで)】



【「その他」の回答内容】

- ・ 講習会等の映像が見たい。
- ・ ドキュメンタリータッチの硬派な番組。

【Q6: その他「能登半島ヘッドライン」について、ご感想・ご意見があれば、お聞かせください。】

- ・ 地元の人、他県の人が見ても、それぞれ情報が得られ、おもしろいと思う。
- ・ 珠洲で行われている里山マイスターみたいなものが見たい。

b) ケーブルテレビ局担当者の意見・感想

能登半島ヘッドラインを制作・放映したケーブルテレビ局担当者の意見・感想及び技術的問題点・課題等を以下に示す。

表 3-2-4 能登半島ヘッドラインへの意見・感想

市町	意見・感想
七尾市 (編集担当)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 構成団体間で、祭り等をはじめとしたコンテンツの流通を行えたことは大きな成果であるが、今後の継続性については、より活発な意見交換を行い、お互いに負担が増えないような工夫が必要である。 ・ 番組の編集等についても、準備を含めて相当な期間を要することから、今後の番組交換のあり方等を検討する必要がある。
輪島市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登の市町で1つの番組を制作する事は、今後のケーブルテレビ局の交流等も含め、大きな意義があると感じており、当市としても実績を残せてよかったと考えている。 ・ 当市は自主番組の制作経験がなく、技術力やノウハウもないため、持ち回り制作には辛い面があると感じており、今後の取組みについては不安が残る。
珠洲市	<ul style="list-style-type: none"> ・ 概ね番組に関しての評判も良く、このような広域番組については、情報を交換することにより、人の動きが活発になり活性化が図られるため、有効なコンテンツであると認識している。 ・ 継続して番組制作ができるようになればいいと考えている。 ・ 今後の課題として、視聴者にコミュニティ番組を見てもらうための方策や番組制作のあり方についても検討していかなければならないと感じている。
志賀町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志賀町ケーブルテレビネットワークで現在放送中の番組とは異なった趣向、雰囲気番組が放送できてよかった。 ・ 能登半島は市町では区切られているが、人の交流は多いので、他市町の情報を流すことに有益性を感じる。
中能登町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市町の情報を発信するのは良いことだが、イベント内容等に差があり、発信する内容にも差が出てくるのではないかと思う。 ・ 今回の制作実態を考えると、持ち回りでの制作は非常に難しいと思うが、制作を持ち回りで行うのであれば、編集のルール作りが必要である。
穴水町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの作品を作る喜びを味わうことができ、番組制作への興味がわいた。 ・ 現在、ケーブルテレビ開局に向けた町内説明会を行っており、自主番組をセールスポイントにできればと考えている。
能登町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 周知期間に余裕があれば、広報がさらに充実したように思う。 ・ 他市町が「肖像権」について鋭敏に反応していたことに驚いた。 ・ 今回は七尾市に編集・制作して頂いたが、当方ではあのような迅速で正確な対応は現在できないと感じている。実力不足・人員不足を痛感した。

表 3-2-5 能登半島ヘッドラインの制作でわかった技術的問題点・課題等

- ・各市が持ち寄る映像素材のフォーマット（規格）をそろえないと、編集機材に対応できない。また、編集終了後に一度 DVCAM に落としてから DVD ヘダビング（参加団体数分）するため、手間がかかる。
- ・各市の映像素材をつなげて1つの番組にするには、ナレーションやつなぎ部分を共通化して、別途制作する必要がある。
- ・各市町が素材を持ち寄る前に、事前に粗編集しておいてくれれば、1つの番組を編集しやすく、時間短縮できる。（良い映像を探すだけでも時間がかかる）
- ・各市町の担当者が立会いのもと編集したが、日程が1日だったため、全てにおいて編集に立会いしてもらえなかった。2～3日間の編集日程で立会いをしてもらわないと、他市町の情報のため、間違っているか、判断がつかない。（あとで訂正のため再編集するとなれば放送するまでに時間がかかる）
- ・現在も編集機にデータを残しているが、いつまで保存しておけばよいか。（データや完成テープは誰が保存するのか）
- ・尺（時間）をあらかじめ設定しながら制作する必要がある。
- ・制作局の選定や編集方針等を決定する組織づくりが必要である。
- ・アナウンサー及び収録場所の確保が必要である。

c) 能登半島ヘッドラインの評価

能登半島ヘッドラインの放映内容については、約 9 割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、視聴者の満足度としては非常に高い結果となった。なお、満足した理由で最も多かった回答は「他の地域の情報を見ることができた」であり、視聴者が在住市町以外にも関心を持っていることがわかった。また、能登半島ヘッドラインの有益性については、9 割以上の視聴者が「有益だと思う」と回答しており、中には「おもしろくはなかった」が「有益性は認める」という視聴者もみられ、満足度よりもさらに高い評価を得ていた。さらに、ケーブルテレビが自主的に放送して欲しい番組として、「他地域のイベント情報」や「自分が住んでいる地域の情報」が挙げられていることから、能登半島ヘッドラインで放映した「祭り」や「イベントインフォメーション」が視聴者のニーズを的確に捉えていたことがわかる。

能登半島ヘッドラインを制作・放映した各局担当者の意見をまとめると、番組の有益性については、各局とも視聴者と同様の認識を示していたが、今後、継続的に番組を制作することについては、自らの技術的能力が現時点では不足しており、例えば、持ち回りで番組制作することは難しいと判断するケーブルテレビ局もあった。また、能登半島ヘッドラインでわかった技術的問題点・課題等を踏まえ、実施に向けた具体的ルールづくりを検討する必要がある。

d) 能登半島ヘッドラインの実現に向けて(具体的ルール (案))

番組の有益性について、高い評価を得た能登半島ヘッドラインではあるが、今後、継続番組として運用していくためには、編集担当局の負担をさらに減らす方法を検討するべきと考える。また、番組の制作姿勢としては、地上波放送等と競い合うような完成度の高い番組を作ろうとするのではなく、自主放送の持ち味の出した手間のかからない番組作りから始めることが望ましい。

さらに、将来的には自主放送の HD 化と連携して、データ放送とリンクさせた番組放映や視聴者へのアンケート調査によるコンテンツの拡充などに取り組むことが望ましい。

【能登半島ヘッドラインの実現に向けて】

- オープニング、エンディングの映像・音声は共通のものを使用する。
- イベント紹介のナレーション・テロップのスタイルを最初から決めておく。
- 各局の持ち時間は最大 3 分間とし、ナレーション・テロップを含めた形で素材を編集担当に提出する。
- 編集担当はオープニング・エンディングと各局の素材をつないで、番組を完成させる。
- 番組更新は、1 ヶ月に一度とする。
- その他、映像フォーマット等については、各局で協議する。

3-3 能登地域以外と自主番組の交換を行うことについて

3-2では能登地域内での自主番組の相互流通についての有用性の検証を行ったが、全国では県域を越える広域的な番組交換を実施するケーブルテレビネットワークが存在している。（「3-6 他の地域の取組み事例について」参照）そこで、能登地域内での自主番組の相互流通から、一歩進んで、域外との相互流通を実施することができれば、自主番組のさらなる充実につながるものと考えられる。

能登地域以外との自主番組の相互流通については、「地域間の連携強化」や「観光交流の促進」などに貢献できるだけでなく、「ケーブルテレビ局間の連携による情報の共有化」や「番組交換を行うことによる制作力・技術力の向上」につながることを期待される。

また、実際に自主番組の相互流通を行った場合には、「番組中のCMや提供スポンサー等の取り扱い」、「再編集作業等の制作負荷」、「広域流通による情報の漏洩・セキュリティ問題」などが課題になるものと考えられる。これらの想定される課題を踏まえ、能登地域以外との自主番組の相互流通の有用性を検証するため、能登地域と長野県・新潟県の自主番組の相互流通を実施した。

表 3-3-1 能登地域以外との自主番組の相互流通の意義と課題

意義	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域との連携強化・連帯感の創出 ・ 地域間の観光交流の促進 ・ ケーブルテレビ局間の連携による情報の共有化 ・ 番組交換による制作力、技術力の向上
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 番組中のCMや提供スポンサー等の取り扱い ・ 再編集作業などの制作負荷 ・ 映像・音声データフォーマットの統一化 ・ 費用分担 ・ 広域流通による情報の漏洩・セキュリティ対策

(1) 長野県・新潟県との自主番組の相互流通の実施

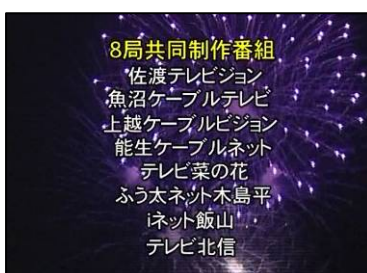
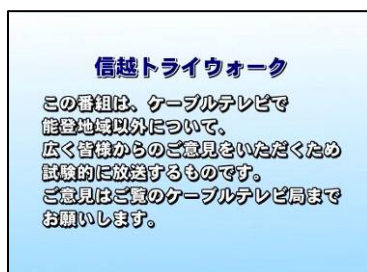
長野県・新潟県のケーブルテレビ局が共同制作している自主番組「信越トライウォーク」と能登7市町で共同制作した試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」の相互流通を実施した。

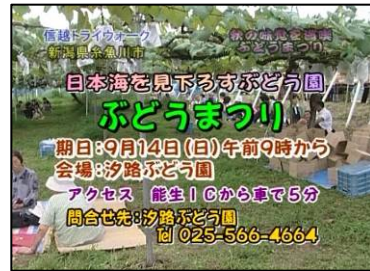
a) 信越トライウォーク

- ・長野県・新潟県のケーブルテレビ事業者が制作・放映している自主番組「信越トライウォーク」を、能登地域内の各ケーブルテレビ局で放映
- ・放映時期：9月中旬～10月中旬

表 3-3-2 「信越トライウォーク」コンテンツの流れ

区分	内容	時間
全 体	オープニング	1:57
長野県 木島平村	でかい秋みつけた／みゆき野の風景画展作品募集	3:16
新潟県 魚沼市	結の灯り／震災メモリアルライブ	3:14
長野県 野沢温泉村	夕陽散歩	2:02
新潟県 佐渡市	民話の宝庫・佐渡／新潟県民話語り佐渡大会	2:59
新潟県 上越市	上杉戦国物語展	3:13
長野県 飯山市	信越トレイル全線開通記念イベント／辰巳芳子さん講演会と昼食会	2:54
長野県 中野市	ぶどうまつり／ぶどうの紹介	3:33
新潟県 糸魚川市	ぶどうまつり／翡翠まつり	2:49
全 体	エンディング	1:00
合 計		26:57





b) 能登半島ヘッドライン

- ・能登7市町で共同制作した「能登半島ヘッドライン（お祭り編）」を、長野県・新潟県の各ケーブルテレビ局で放映
- ・放映時期：11月中旬～11月下旬



(2) 有用性の検証

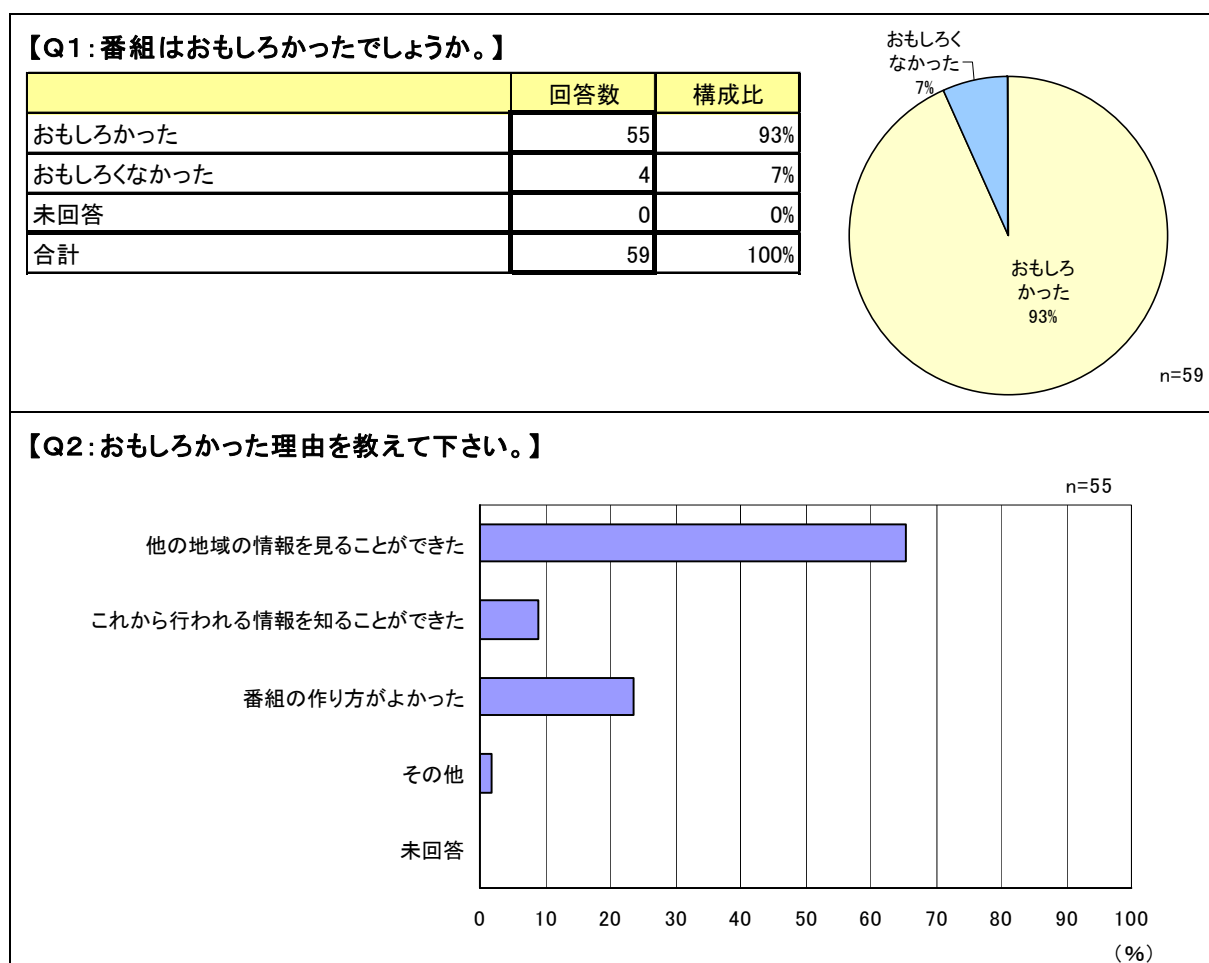
信越トライウォークと能登半島ヘッドラインの相互流通の有用性を検証するため、ケーブルテレビ視聴者に対するアンケート調査及び各局担当者の意見収集を実施した。

a) 視聴者アンケート

信越トライウォークに対する視聴者の満足度及びニーズを調査するため、各局視聴者に対するアンケート調査を実施した。なお、ケーブルテレビ局が開局していない穴水町については、番組を納めた DVD を視聴してもらい、アンケートを回収した。

ア. 視聴者満足度

信越トライウォークの放映内容については、約 9 割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、満足度としては非常に高い結果となった。また、信越トライウォークを「おもしろかった」と回答した視聴者が満足した理由として挙げたものは、「他の地域の情報を見ることができた」が全体の約 7 割を占め、次いで「番組の作り方がよかった」が全体の約 2 割を占めた。

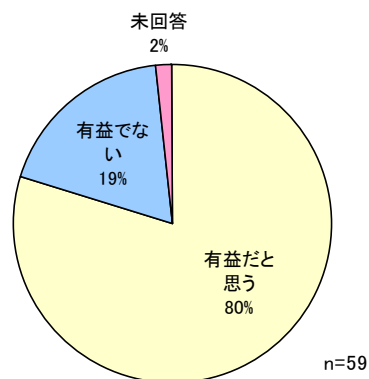


イ. 番組の有益性

信越トライウォークの有益性については、約8割の視聴者が「有益だと思う」と回答した。これは能登半島ヘッドラインの有益性に比べると、若干低い傾向にある。

【Q3:「信越トライウォーク」のような石川県や能登地域以外の地域の番組を、CATVで提供することについてどう思いますか。】

	回答数	構成比
有益だと思う	47	80%
有益でない	11	19%
未回答	1	2%
合計	59	100%



【(Q3で「有益でない」と回答された方へ) 有益でないと考える理由は何ですか。】

	回答数	構成比
他の都道府県の情報は、わざわざケーブルテレビで放送しなくても、インターネットや他の民放などでも知ることができるから	8	73%
他の都道府県の情報に興味がないから	3	27%
その他	0	0%
未回答	0	0%
合計	11	100%

ウ. その他

その他の意見で、信越トライウォークが地元向け番組として作られているため、「場所がわからない」、「地理的に理解しづらい」という問題があることがわかった。

【Q4:その他「信越トライウォーク」について、ご感想・ご意見があれば、お聞かせください。】

- ・表面的な情報ではないその地方での地元ならではの情報発信はケーブルテレビしかできないと思われるので、地元以外のさまざまな情報を流して欲しい。
- ・大きなイベントより、小さいけど行ってみたいようなイベント情報が見られたのでおもしろかった。
- ・番組の作りが良く楽しかったが、他県の情報を知ってもあまり有益ではなかった。
- ・富山(氷見や高岡など)の情報なら見ても有益かも。信越の情報はピンとこない。
- ・相互に地域情報をやりとりできれば誘客に役立つと思う。
- ・番組の作り方が地理的に理解できる視聴者向けのように思う。
- ・位置図や名称のふりがながあっても良いのではないかな。
- ・8局の位置関係を地図上に表示するなど、最初に視聴者に理解してもらった方が良いのではないかな。
- ・県外で放送する場合は場所がわかるような地図などの映像があるとわかりやすい。(詳細なものだけでなく県のどの位置にあるのか)

b) ケーブルテレビ局担当者の意見・感想

信越トライウォーク及び能登半島ヘッドラインを制作・放映したケーブルテレビ局担当者の意見・感想及び技術的問題点・課題等を以下に示す。

表 3-3-3 放映内容への意見・感想

能登 7 市町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報番組として、地方の民放局の番組と比べても遜色ないと思う。 ・ バイタリティのあるレポーターが番組を盛り上げている。 ・ 出演者や制作者が楽しそうに番組を作っていると感じた。カメラワークも参考になった。 ・ 番組構成、編集、収録方法が参考になった。 ・ オープニングの編集が良く、どんな内容になっているかの惹きつけられるものがあった。 ・ 今後も地域情報のほかに、ニュースなどの情報も見たい。観光情報なども知りたい。 ・ ナレーションの速度が局によってかなり差があると感じた。 ・ 1局エリアのイベント等の案内番組としては内容や番組構成は素晴らしいものを感じ取ることができる。しかしながら、1番組として通して見た場合、視聴者は長く感じないだろうか。集中して最後まで見ることができるだろうか。 ・ 能登地域の視聴者はその話題がどのあたりのことなのか理解できないと思う。そのあたりを工夫して番組制作したほうがよいと感じた。 ・ 見ていて興味を引く内容ではあったが、近場のイベント情報ではないのであまり身近な情報という感じはしなかった。トライウォークに限らず、ドキュメンタリーやバラエティなど1話完結していれば放映に有益（コンテンツの充実）性を感じるが、他県の小さなイベント告知情報番組はあまり視聴者の興味を引かないと感じた。
長野県・新潟県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 能登半島の地域ごとにお祭りがまとめて見られて、それぞれの特徴がよく分かり楽しめた。 ・ 何も考えずに見たが単純に楽しめた。違和感はなかった。 ・ 若手からは、「大変勉強になりました」との声があった。 ・ 他県の視聴者向けに、祭りが行われている市町村の位置説明があれば分かり易いのではないか。 ・ 海のある映像がもっとみてみたい。 ・ 最初にガイド役の女性アナウンサーが出演していたが、他地域で放映する場合は少し手法を考えたほうが良いかもしれない。 ・ 20分ぐらいの番組でしたが、27分～30分尺での構成ができれば、受け手としては助かる。 ・ オープニング(テロップのみ)が少々長い気がする。 ・ 番組の作りがシンプルでとても見やすいが、ゆえに何回も放送すると飽きやすいかもしれない。

表 3-3-4 相互流通への意見・感想

<p>能登7市町</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視聴者にとっては広域のイベント等の情報を得られ、自治体にとっても地元以外の地域に宣伝ができるため、双方にメリットがあって良い。 ・他地域の番組を放送することで、番組の内容に幅ができる。 ・他地域の情報も定期的に知ることができる番組は必要だと思う。放映してよかったと思う。 ・広報で番組放送の告知をしたほうが、もっと視聴する人が増えるはず。 ・県外の他の局がどのように番組を作っているか勉強になった。 ・視聴者に身近なイベントや行事に関する情報を提供することはいろんな面でメリットがある。能登地域でも同じことができればいいと思う。 ・本来なら県外情報を放送するよりも、「能登半島ヘッドライン」くらいの範囲の情報が適していると思うが、信越トライウオークのような番組形態があることを町民に知ってもらうだけでも有益である。 ・この番組を見て、長野県や新潟県に足を運ぶ町民がいてほしいと思う。 ・他地域のイベント等の情報は近接地域までが妥当ではないかと思う。 ・あくまで交流（勤務、通学等）がある地域の情報でないと活かないと思う。 ・他地域の情報を放送することは有益だとは思いますが、視聴者に役に立つ情報かどうかは疑問である。近隣の自治体や隣県の情報であれば、興味を持って見てもらえるのではないかと。
<p>長野県・新潟県</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本局は行政の広報が主目的の放送局であるが、自局での制作と村内の情報だけでは内容が乏しいので、近隣局との共同制作番組「信越トライウオーク」や、同県内隣接局同士でのニュース番組の交換などは内容充実に大いに活用している。このような交流が富山県や石川県などにも広がることは、制作側はもちろん、お互いの地域の視聴者にも有意義なことと思っている。 ・このような番組交換が、お互いの地域の活性化に繋がることを願う。 ・観光で能登地域に遊びに行くことがあるので、もっと細かいレジャー情報、イベント情報が知りたい。 ・歴史や文化は取り上げやすいが、年間を通じて数あるものではないので、別の角度のものも是非見せてほしい。 ・これからの番組作りに大いに期待している。

表 3-3-5 相互流通でわかった技術的問題点・課題等

<ul style="list-style-type: none"> ・ファイルのダウンロード^{注)}に2時間近く時間を要した。 ・ダウンロードしたファイルに対応する編集ソフトを準備する必要がある。 ・DVDを各局に配布したが、フォーマット形式やシステムの違いにより取り込みができなかったことがあった。 ・ファイル変換を行うため、画像の劣化は否めない。

注) 信越トライウオークとの相互流通では、信越側からの番組提供をiネット飯山のサーバ経由で行った。

c) 相互流通の評価

長野県・新潟県の情報番組「信越トライウオーク」に対する能登地域の視聴者満足度は、域内情報番組「能登半島ヘッドライン」と同様に高く、域外の情報に対するニーズも十分にあることがわかった。また、番組の有益性については、「有益だと思う」と回答した視聴者が約 8 割で、能登半島ヘッドラインに比べると約 1 割減少しているが、長野県・新潟県という生活圏外の情報という点を考慮すると、十分有益な番組であったと評価できる。

相互流通を実施したケーブルテレビ局担当者の意見をまとめると、番組の有益性については、遠方のローカル情報に対するニーズの低さを懸念する意見も聞かれたが、互いの番組内容についての評価は高く、番組コンテンツとしての魅力とともに、こうした番組交換を行うことによる自らの制作力・技術力の向上にも期待したいとの評価であった。また、相互流通を実施したことにより、互いの番組の改善点や番組交換に関する技術的な課題が明らかになったことも収穫といえる。

長野県・新潟県だけでなく、今後、北陸地域全体を対象とした相互交流を本格的に進めていくために検討すべき点としては、地理的に必ずしも詳しくない遠方の視聴者でも番組に入り込みやすくなる工夫（マップや文字解説など）を加えることなどが挙げられる。お互いの距離感を縮めて、さらに多くの視聴者に興味を持ってもらうことにより、観光交流の促進等にも貢献できるものと考えられる。

3-4 県議会中継の配信について

ケーブルテレビ局が提供する市議会・町議会中継は、視聴者ニーズの高い番組の1つである。また、他県のケーブルテレビ事業者の中には、市議会・町議会だけでなく、県議会中継を配信しているところもある。

これらを踏まえ、自主番組充実のための方策として、県議会中継の配信の有効性について検証するため、石川県議会の試験放映を実施した。

(1) 県議会中継の配信

石川県議会の様子を録画収録し、各ケーブルテレビ局で試験放映した。

- 議 会 名 平成 21 年第 1 回石川県議会定例会
- 会 期 平成 21 年 2 月 26 日～3 月 19 日
- 放映内容 知事提出議案説明（平成 21 年 2 月 26 日収録）
- 放映時間 約 66 分
- 放映時期 平成 21 年 3 月上旬



(2) 有用性の検証

県議会中継の有用性を検証するため、ケーブルテレビ各局の視聴者に対するアンケート調査及びケーブルテレビ局担当者の意見収集を実施した。

a) 視聴者アンケート

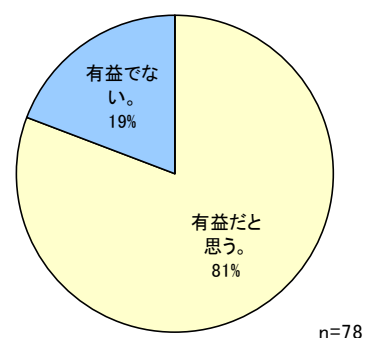
県議会中継に対する有益性を調査するため、各局の視聴者に対するアンケート調査を実施した。なお、ケーブルテレビ局が開局していない穴水町については、番組を納めた DVD を視聴してもらい、アンケートを回収した。

ア. 番組の有益性

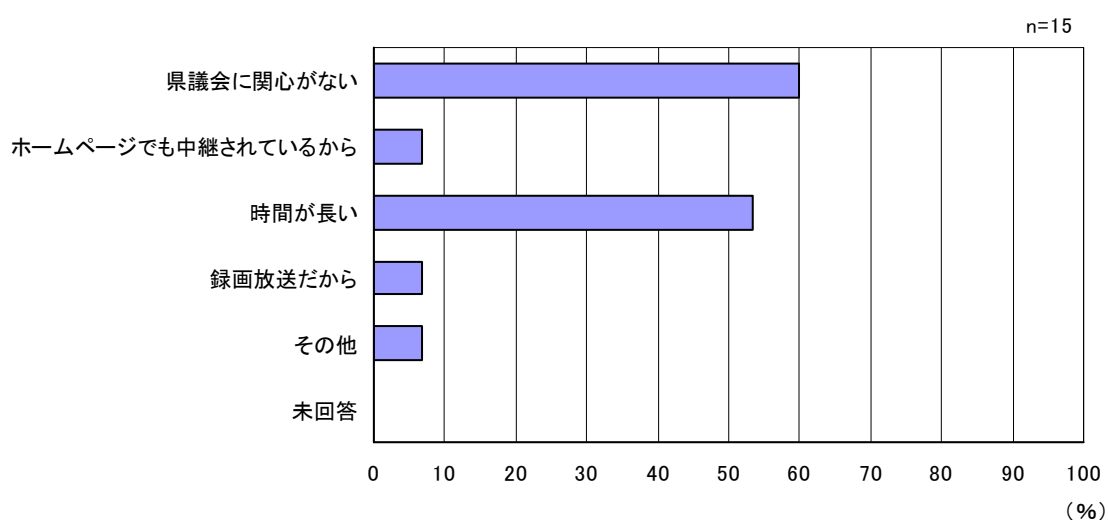
県議会中継の有益性については、約 8 割の視聴者が「有益だと思う」と回答した。また、「有益でない」と回答した視聴者が理由として挙げたものは、「県議会に関心がない」が全体の約 6 割を占め、次いで「時間が長い」が全体の約 5 割を占めた。

【Q1：県議会の模様を、CATVで提供することについてどう思いますか。】

	回答数	構成比
有益だと思う	63	81%
有益でない	15	19%
未回答	0	0%
合計	78	100%



【(Q1で「有益でない」と回答された方へ) 有益でないと考える理由は何ですか。(2つまで)】

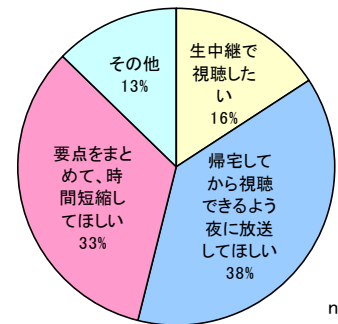


ウ. 望ましい放映方法

県議会中継の放映方法については、約4割の視聴者が「帰宅してから視聴できるように夜に放送してほしい」、約3割の視聴者が「要点をまとめて、時間短縮してほしい」と回答した。なお、その他の回答では、「生中継と夜の録画放送」、「夜に要点をまとめたものを放送」などの意見が挙げられた。

【Q2: (Q1で「有益だと思う」と回答された方へ) 県議会の中継は、どのような放送が望ましいと思いますか。】

	回答数	構成比
生中継で視聴したい	10	16%
帰宅してから視聴できるように夜に放送してほしい	24	38%
要点をまとめて、時間短縮してほしい	21	33%
その他	8	13%
未回答	0	0%
合計	63	100%



【「その他」の回答内容】

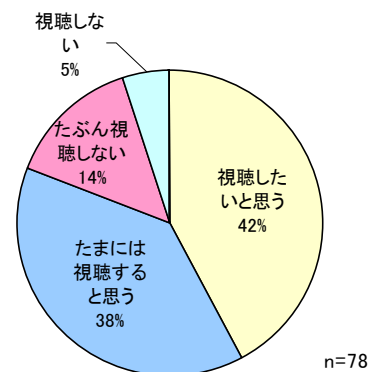
- ・ 生も再放送もした方がいいと思う。
- ・ 夜に要点をまとめたものを放送。
- ・ 生中継と夜の録画放送。
- ・ 生中継と夜の時間は要点をまとめたものを録画で放送

エ. 視聴者のニーズ

今後の県議会中継の視聴については、約8割の視聴者が「視聴したいと思う」、「たまには視聴すると思う」と回答しており、番組の有益性について、「有益だと思う」と回答した視聴者の割合と一致する結果となった。

【Q3: 石川県議会中継を今後もCATVで視聴したいと思いますか。】

	回答数	構成比
視聴したいと思う	33	42%
たまには視聴すると思う	30	38%
たぶん視聴しない	11	14%
視聴しない	4	5%
未回答	0	0%
合計	78	100%



【Q4:その他「県議会中継」について、ご感想・ご意見があれば、お聞かせください。】

- ・緊張感が増して良いと思う。
- ・視聴してためになりました。これからも是非、視聴したいと思います。
- ・分かりやすい解説があったらいいと思います。
- ・生中継でも視聴したいが、夜でも視聴できるよう放送してほしい。
- ・仕事で遅いリアルタイムでは見られないので、いろいろな時間帯で要点をまとめたものが好ましい。県議会の中継自体は今後も続けて欲しいです。
- ・色々な角度から、議員の方達の表情を見たい。
- ・生中継で放送し、ダイジェストを夜に放送が出来ればと思います。
- ・発言する方の表情などが分かるようなカメラアングルのほうが、見る側の興味が増すと思います。生中継と録画、両方必要と思います。
- ・いろいろな話があったが、編集してわかりやすくなればもっと見やすくなると思う。生中継の他にもいろいろな時間帯で編集したものを再放送するとたくさんの方が視聴できると思います。
- ・様々なアングルからの撮影をした方がいい。
- ・出てくる用語が難しいものがあるので、ちょっとした説明みたいなものがあるといいと思いました。
- ・国会のように生中継もした方がいいなと思います。そして生中継を見られない時間帯の人にも夜に要点をまとめた分を放送してほしいです。
- ・県議会の様子を TV で見られるのは石川県が今後どうなっていくのか知ることにもなるのでとても興味を持てた。1日に何回か再放送があるとたくさんの方が見られるので良いと思う。
- ・画像があらい。ハイビジョンで放送して下さい。
- ・映像に変化をつけてほしい。
- ・新聞より、放送(CATV)で見た方が、来年度予算の使われ方施策の内容が理解しやすかった。
- ・ケーブルテレビで放送していただければ、録画も出来るし、できれば1週間連続で朝・昼・夜など何回も放送してほしい。
- ・一定方向からのカメラ撮影については、どうかと思いますので、もう少し工夫をお願いします。
- ・初めて県議会の様子が見られて、意外と自分達に身近で興味深い内容(学校教育・子育て支援など)について説明されており、また視聴したいと思います。
- ・議会ですらどういったことが話されているのかわかるのは良いと思います。地上波の国会中継のように、全体の様子を映したり、アップにしたりと、いろんな撮り方にするの見易いと思います。
- ・議会の様子がわかりやすいように放送して欲しいです。
- ・今まで決定したことをニュースなどで知るしかなかったが、議会の様子がTVで手軽に見られることにより、県政について興味、意識が高まった。
- ・時間帯を分けて何度も放送して欲しい。
- ・議員さんの表情がもっとわかると良いと思う。
- ・議会の現場を知る良い機会になった。レポートで放送してほしい。
- ・聞きとりにくい箇所があったので字幕スーパーがあるといいと思いました。
- ・提案理由の説明だけでなく、議員が出ている質疑や一般質問の映像が見たかった。
- ・今回は、提案理由の説明だったためか、単調な感じがした。時間短縮して要点のみの放送か、一般質問の中継が見たいです。
- ・新聞で要約されたものが出てくるが、それが実際どのように質問されていたか、映像で見たいと思うが、TV放映では、それがどこに流されるかもわからないので、その少し見たいだけなのに、長々とみさせられるのは苦痛です。HPなどでいつでも見られるならそちらを見たい。

b) ケーブルテレビ局担当者の意見・感想

県議会中継を放映したケーブルテレビ各局担当者の意見・感想などを以下に示す。

表 3-4-1 自局の自主放送枠で県議会中継を放映することへの意見・感想

- ・ 能登地域において県議会を傍聴する場合には、県政バスなどで県庁まで行かなければ議論の内容が見えない。夕方のテレビ等で一部の放送は行っているが、その他の議論が分からず、そのことが議会の無関心に繋がっていると考え。民主主義の根幹であり公開されなければならない議会は、あらゆる手段で県民に情報発信すべきである。また、県庁と距離のある能登地域には、是非 CATV での中継をすべきであり、そのことがまさしく ICT を使った有効な方策であると考え。
- ・ 有益だとは思。ただし、町議会も放映しており、定例議会の放映時期が重なるため、どのように放映するか検討が必要だと思。
- ・ 議会への関心を高めるといいコンテンツだと思う。代表取材になると思うので、その辺りの調整、費用負担等はどうなるのか？
- ・ 開局後、町議会中継を放映する予定なので、それに対する住民の反応を見極めながら対応したい。
- ・ 県議会中継することについては決して反対ではない。しかし、議会開会月は議会中継の比重が大きくなるのではないだろうか。このあたりを更に研究する必要があると考える。やはり地元自治体の議会中継を優先するべきと考える。
- ・ 現在、市議会のみ放送しているが、少数意見だが県議会の関心も住民にはあると思う。
- ・ 滅多に見ることはできない内容なので、興味を引くことはできると思われる。

表 3-4-2 県議会中継の放映方法などへの意見・感想

- ・ できれば生放送が良いと思うが、録画中継であっても情報を発信し、県民がその情報を享受できることが大切なことであると考え。
- ・ 県内全域で生放送ができるよう整備できれば良いと思う。現在放送している自主放送の枠以外で新たなチャンネルを設ければ対応できるが、技術的な面、法的な面などを含めて、協議する必要がある。
- ・ 今回は議案説明のみの放送だったが、質疑質問、議案採決等を放送すれば、より関心も高まるはず。
- ・ ケーブルテレビの性質上、繰り返し放送することが多いので、録画番組で放送することは番組編成上、都合が良いと思われる。
- ・ 知事が提案理由の説明をしている間に、子画面でそれを聞いている人（議長、各議員、副知事、部課長等）の姿をスライドショーしたり、議場内遠景（傍聴席も含む）を入れたりすると、画面が変化に富んでよいと思う。
- ・ 今回は県知事の「提出議案説明」だけで1時間以上の放映枠になったが、これが一般質問等になってくると放映時間がどのようになるのか心配。要点をまとめたものを放映するにしても、誰がまとめるのか、議員の質問意図がきちんと伝わるようにまとめられるかが大変難しいものになると思う。
- ・ 提出議案説明の部分なら録画中継で充分と感じた。生放送で一部始終放送するなら、長時間過ぎて他の番組が流せないで、編集したものを放送したほうがよい。

表 3-4-3 その他県議会中継への意見・感想

- ・ 県庁内で放送されている中継が、何故、県全体に放送されないのか。また、インターネットで配信されているものが、何故、CATVで放送することができないのか分からない。
- ・ 事前の放送周知ができれば、放送を見る人が増えると思われるので、ある程度、宣伝を行ってから放送した方が良いと思われる。
- ・ 問い合わせなど視聴者からの意見がなかった。あまり関心がなかったようである。広報誌掲載など住民への周知が図られなかったこともあるが、視聴した方からの意見では、ただ知事が説明しているだけで文字スーパーなどないから分かりづらいことも指摘され、放送内容も吟味しなければならないのでは。

c) 県議会中継の配信への評価

県議会中継の配信については、約8割の視聴者が「有益だと思う」と回答しており、今後の県議会中継の視聴についても、約8割の視聴者が「視聴したいと思う」、「たまには視聴すると思う」と回答している。

また、県議会中継の放映方法については、約4割の視聴者が「帰宅してから視聴できるよう夜に放送してほしい」、約3割の視聴者が「要点をまとめて、時間短縮してほしい」と回答しており、その他として、生中継と録画放送の両方を望む意見も寄せられている。

県議会中継を放映した各局担当者の意見をまとめると、番組の有益性については、各局とも視聴者と同様の認識を示していたが、今後、継続的に放映することについては、市議会・町議会中継との調整や費用負担等を心配する意見も挙げられた。また、放映内容については、文字スーパーの挿入や画面分割、また編集の必要性等の意見が挙げられた。

3-5 アマチュアが制作した映像コンテンツの活用について

能登地域における ICT インフラの有効活用調査として、地域住民の視点からのコンテンツ制作が有用であることを検証するため、金沢星稜大学 澤信俊ゼミの学生たちが「よそ者・最近の若者」が知りたい行事等を主眼とし、地域住民との直接の触れあいを記録した映像作品を制作した。

(1) 調査概要

①メンバー：金沢星稜大学 澤信俊ゼミの学生 6名

期間：9月21日（日）～22日（月）

対象：七尾市能登島日出ヶ島 民宿「日の出荘」

内容：作陶・案山子窯、日出ヶ島集落調査、天草採集、ところてん製造など

選定ポイント：能登島内でスポットが当てられていないこと。金沢から近距離にあるため地域として衰退する可能性は低いが、将来、能登島らしさを活かした街づくり（自転車で1周できるサイクリングロードの整備など）の余地がある。

②メンバー：金沢星稜大学 澤信俊ゼミの学生 7名

期間：10月3日（金）～10月5日（日）

対象：珠洲市狼煙町 農家民宿「大坪」

内容：狼煙町内集落調査、「岬自然遊歩道歩こう会」行事参加、たこすかし体験、珠洲市内地域資源・集落の調査活動など

選定ポイント：能登地域のなかでも最北端の過疎地であること。集落内の民家を民宿として活用することで、大型旅館とは異なるメリット（設備投資が不要、長期滞在可能、安価など）をアピールできる。また、ケーブルインフラやインターネットを活用し、地域外へ積極的な情報発信を行うことで、地域資源を活かした雇用が創出される可能性が大きい。

※いずれも、地域の生活状況を主眼に選定を行った。

■ 調査風景



(2) 学生による自主制作映像 (7 作品)

七尾市能登島	珠洲市狼煙町
 <p data-bbox="359 757 683 790">『ぷらり・のどじまの旅』</p>	 <p data-bbox="1023 757 1233 790">『透きとおる海』</p>
 <p data-bbox="403 1182 639 1220">『のどじま発見記』</p>	 <p data-bbox="1007 1182 1249 1220">『珠洲の旅 2008』</p>
 <p data-bbox="359 1612 683 1650">『よそ者 能登島体験記』</p>	 <p data-bbox="981 1612 1278 1650">『よそ者 珠洲体験記』</p>
 <p data-bbox="938 2038 1321 2072">『珠洲のお父さんお母さんへ』</p>	 <p data-bbox="938 2038 1321 2072">『珠洲のお父さんお母さんへ』</p>

(3) 有用性の検証

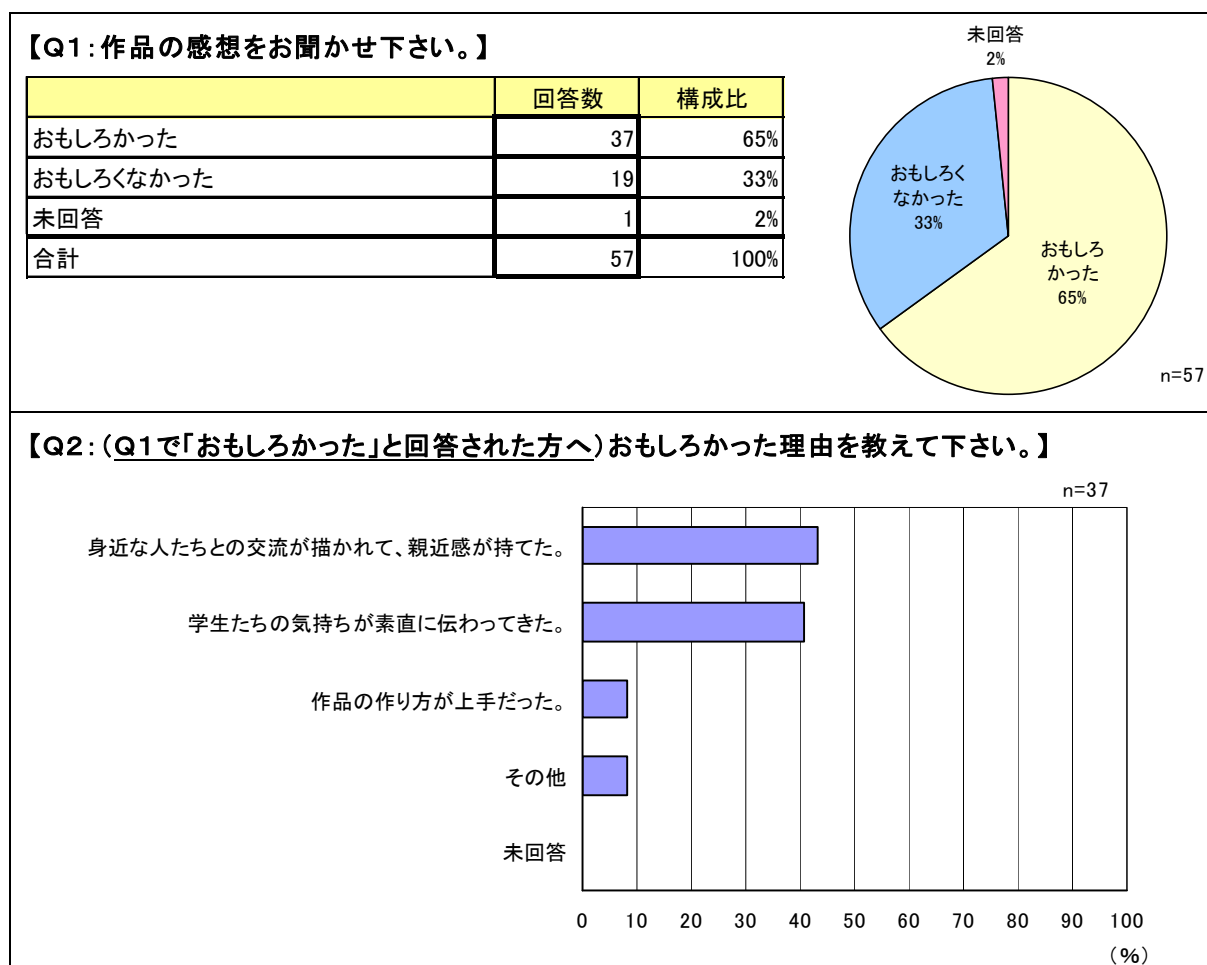
地域住民との直接の触れあいを記録した学生の映像作品の有用性を検証するため、各ケーブルテレビ局の自主放送枠での放映を実施するとともに、ケーブルテレビ視聴者及び学生に対するアンケート調査と各局担当者の意見収集を実施した。

a) 視聴者アンケート

地域住民との直接の触れあいを記録した学生の映像作品に対する視聴者の満足度及びニーズを調査するため、各局視聴者に対するアンケート調査を実施した。なお、ケーブルテレビ局が開局していない穴水町については、番組を納めた DVD を視聴してもらい、アンケートを回収した。

ア. 視聴者満足度

地域住民との直接の触れあいを記録した学生の映像作品については、約 7 割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、満足度としては高い結果となった。また、「おもしろかった」と回答した視聴者が満足した理由として挙げたものは、「身近な人たちとの交流が描かれて、親近感が持てた」及び「学生たちの気持ちが素直に伝わってきた」が全体の 4 割以上を占めた。

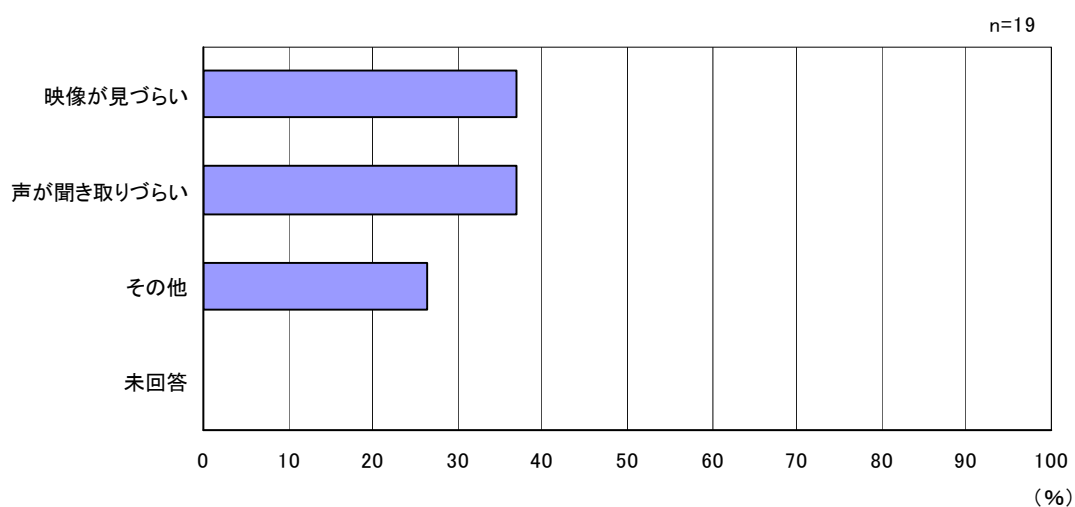


イ. 改善のポイント

地域住民との直接の触れあいを記録した学生の映像作品を「おもしろくなかった」と回答した視聴者が挙げた理由としては、「映像が見づらい」及び「声が聞き取りづらい」が全体の3割以上を占めた。

また、その他の回答の中には、テロップの表示時間が短いため、字が読めないという意見もあり、高齢者への配慮も必要なことがわかった。

【Q3: (Q1で「おもしろくなかった」と回答された方へ) おもしろくなかった理由を教えてください。】



【「その他」の回答内容】

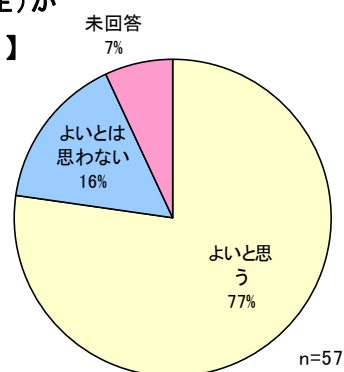
- ・ 内容がわかりにくい。
- ・ 何を伝えたかったのか今イチはっきりしなかった。
- ・ ブレすぎ。
- ・ 自分達の中で楽しんでいるだけで何を伝えたいのか分からなかった。
- ・ 字が読めない(時間が短い)。お老人でも読める時間を考えてほしい。

ウ. アマチュア作品について

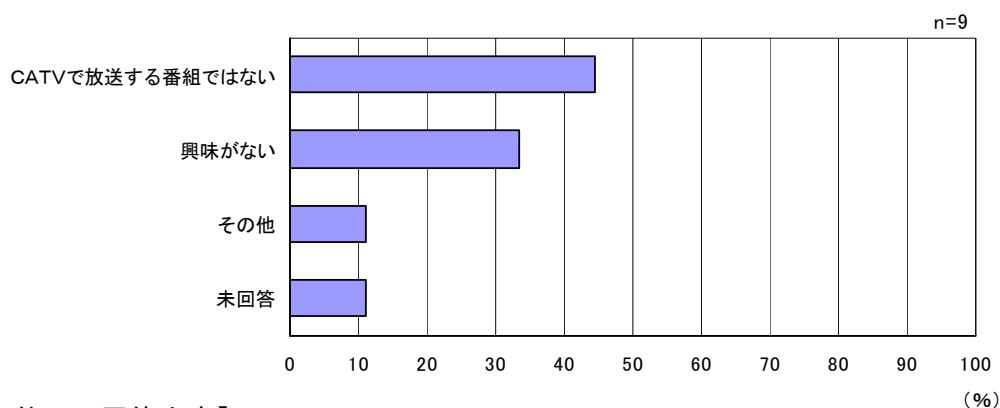
番組制作のプロではないアマチュアの映像作品をケーブルテレビで放送することについては、約 8 割の視聴者が「よいと思う」と回答しており、パブリックアクセスチャンネル（PAC）等への理解を示す視聴者が多いことがわかった。

【Q4:この作品のように、番組制作のプロではないアマチュア(学生)が作成した地域の番組をCATVで放送することをどう思いますか。】

	回答数	構成比
よいと思う	44	77%
よいとは思わない	9	16%
未回答	4	7%
合計	57	100%



【(Q4で「よいとは思わない」と回答された方へ)よいと思わない理由を教えてください。】



【「その他」の回答内容】

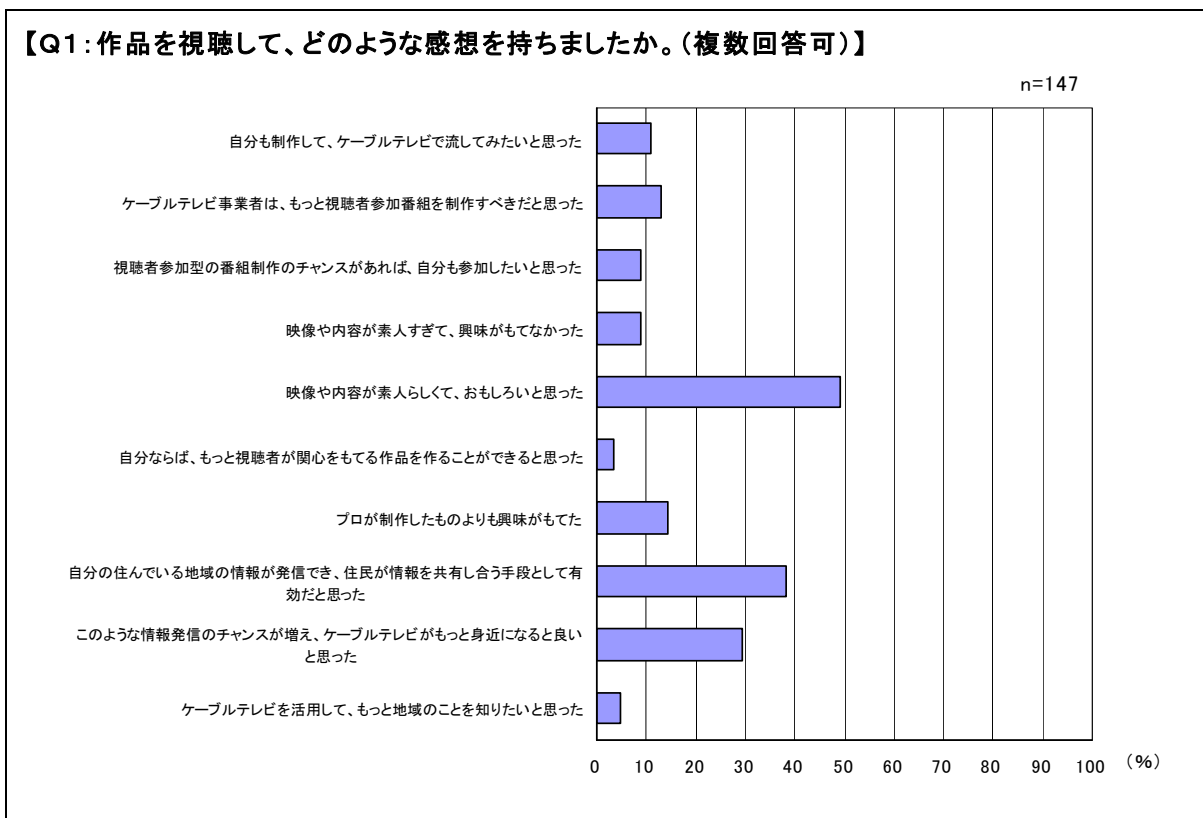
- ・ 内容によって、中には良いものもあると思うが、「作ったこと」で満足した作品ではなく、誰が見ても何を放送しているのか分かるものにしてほしい。

【Q5:その他「金沢星稜大学・澤ゼミ学生制作映像」について、ご感想・ご意見があれば、お聞かせください。】

- ・ 若い人はいっぱいいますので、また珠洲に来て下さい。
- ・ 住民が気付かない地域の魅力をとらえて伝えることに意義があり、その意味では共感が持てる。あとは、制作技術の向上！
- ・ 撮影は楽しそうに行われており雰囲気はいいが、音が大きすぎたり、ノイズが入って聞きづらく、せっかくの制作意図が伝わらなかった。
- ・ 地域住民の方の「生の声」をもう少し入れればより伝わるものがあるのではないと思う。
- ・ 公共に流す映像ならば、もう少し細部にもこだわって作るべきだと思います。

b) 学生アンケート

地域住民との直接の触れあいを記録した学生と同世代の若者の意見・感想を調査するため、金沢星稜大学の学生に映像作品を視聴してもらい、アンケート調査を実施した。



【Q2: 作品を視聴して、気づいたことを記入してください。】

- ・ わかりやすく親しみやすい映像になっていた。地元の人が見たら嬉しいだろうなと思った。
- ・ ケーブルテレビだと、どうしても地元の人しかその地域のことを知ることができないので、他の地域のケーブルテレビでも放送すれば、様々な地域の発見ができるのではないかなと思った。
- ・ 能登に興味を持てる良い内容のVTRだった。県外の人にぜひ見てもらいたい。
- ・ 自らの体験を視覚化できるように映像で訴えていたので、とても好感を持てた。
- ・ やはり素人要素は残るものの、ちゃんとした「作品」として仕上がっていた。
- ・ 能登島の良さが、10分間に凝縮されていてとてもよかった。
- ・ 自分が体験したことを発信しているので、地域がより身近に感じられた。
- ・ 地域情報の発信やケーブルテレビを身近に感じさせる効果として非常によいと思う。
- ・ インタビュー形式からビデオ映像に入るのが非常に興味がわいた。演出が上手かった。
- ・ 私は能登町(旧柳田村)の出身で、生まれた頃から地元のケーブルテレビに親しんできた。今回の学生の作品を見て感じたことは、あえてナレーションを入れなかったと言っていたが、ナレーションは入れたほうがよかったと思う。私としては少しもったいない気がしたが、学生がこのような制作を行ったことに対して、とてもうらやましく思った。
- ・ 能登キリコ祭りは有名なのに参加したことがないので参加したいと思った。

- ・私も能登に行きたいと思う。全国にどんどん情報を発信すればいい宣伝になると思う。
- ・音と映像のみで紹介して、ナレーションは一切入れないという技法が斬新であった。
- ・対話形式と実体験を織り交ぜていたのが興味をひいた。BGM と映像がとても合っていた。
- ・自分の地元だったので、とてもなつかしかった。
- ・地域貢献の一環としてみればとてもいいものだった。
- ・地域の人々と交流を持つことが素晴らしいということが伝わってきて良いと思った。
- ・視点・アイディアは斬新だった。
- ・地域に密着したこのようなプロモーションビデオは、全く知らない人たちに知らせる手段として、とても有効なものだった。
- ・地域を PR するだけでなく、若者が実際に行った様子が、学生ならではの素人から見てもおもしろかった。
- ・初めての人が作ったものと聞いて感心した。まだまだ良いところが珠洲にあるなら、もっと入れたほうが良いと思う。
- ・プロとは違う素人さが、私的にはとてもいい(おもしろい)と感じた。
- ・素人らしさが逆に親近感がわいてとても見やすかった。
- ・とても元気のあるビデオだと感じた。能登の PR をもっと増やしてほしい。
- ・学生が能登を楽しんでいる様子がとてもよく伝わってきた。ビデオの編集作業が楽しそうだった。能登でたこすかしなどをしたいときはどこに申し込めばよいのか気になった。
- ・たこを捕るときの映像と解説を交互に出していたのがおもしろいと思った。
- ・「能登島らしい」と思えるものがない。なぜ能登島なのかよくわからなかった。
- ・音声聞き取りづらかった。民放の地域番組を見ている感じがした。
- ・若干、字幕が見えにくいところがあり、気になった。
- ・普段はテレビ局が制作しているものばかり見ているので、どうしても比較してしまう(内容や映像)。例えば、素人が番組を制作して見る人がいない場合があるので、ケーブルテレビ会社は本当に一般人の制作番組に興味を持つのか疑問に思う。
- ・冒頭の画面切り替えが早い気がした。全体的にチカチカしすぎない気がしないでもない。
- ・意図がよくわからない映像がよくある。小出しにせず、もう少し絞ってストーリー性を持たせてはどうか。
- ・映像全体の趣旨と音楽、演出が合っていないと全体がぼやけて見えた。前後の喋りの素人っぽさは抜けないが、予想していたよりもまとまっていた。楽しんでいる様子が伝わってきたので、それだけでも見る価値はあった。
- ・キリコ祭りの映像のとき、太鼓と曲が混ざって、キリコ祭りの良いところがうまく引き出せていなかった。
- ・プロモーションビデオ風映像の音声が入るところで、音楽がいきなり小さくなるので、ムラがあるように聞こえた。前もってゆっくりフェードアウトさせるようにしたらどうかと思った。
- ・撮影者が走ったときに、映像がぶれて少し見づらいところがあった。
- ・能登の映像を流すのであれば、BGM をもっとそれらしいものにすればいいと思う。
- ・もう少し説明する文があってもよい。ろくろ体験をした場所の地図などがあればよい。
- ・制作したビデオ作品は家の中ばかりだったので、外で楽しんでいる様子を制作したほうが良いと思う。
- ・ケーブルテレビは見られる人が限られていて、地上波の TV とは違い、とても住民の情報の共有がせまい範囲になってしまうと思った。
- ・もっとビデオ内で色々なことについて伝えてほしかった。
- ・この作品がどのように社会に役立つのか、地域経済に良い効果を与えるには、ケーブルテレビにてこのような作品を流すことも考えられるが、今後のケーブルテレビ利用率を上げるにはどうしたらいいのか、考えさせられた。

c) ケーブルテレビ局担当者の意見・感想

地域住民との直接の触れあいを記録した学生の映像作品を放映したケーブルテレビ各局担当者の意見・感想及び作品を制作した学生へのアドバイスなどを以下に示す。

表 3-5-1 学生の映像作品を自主放送枠で放映することへの意見・感想

- ・ 学生や市民が制作した番組を自主放送枠で放送することは特段問題ないと思う。但し放送する番組内容や制作者とケーブルテレビとの繋がりや放送する目的が何であるのか紹介する必要があると考えている。
- ・ 公設公営の局であることにより、これまでは少し難しく考えていた。また、最近ではCATV連盟や北陸支部も番組の共同制作や交換を検討しているので、今後は地域住民もケーブルテレビで番組を見るだけでなく、参加できるコーナー等も検討したいと考えている。
- ・ 住民自身が番組の企画・制作を手がけ、住民の身近な話題を積極的にケーブルテレビで放送することができるようになることで、地域や生活などについて共通の問題意識をもち、広く議論する場が創出されることにもなる。また、学校に通う生徒などが番組制作に参加出来るような環境を整えば、メディアを理解し活用する能力や、情報を創り出し発信する能力を養うことができるなど、メディアリテラシーの向上を図ることができるように考えている。
- ・ CATVで制作した番組だけを流すだけではなく、学生が自主的に制作した番組を放送することは新鮮な感じがして、面白いと思った。
- ・ 放送する内容は精査するが、公共放送に適したものなら、ぜひ放送したい。しかし、市・町の枠組みを越えた作品は、まだ受け入れていない。
- ・ 放送に耐えうる質を投稿者にどこまで求められるか、難しいと思われる。
- ・ 番組の一部で使用することについては大変興味のある素材だと思う。しかし、作品をそのまま流すには、ある程度放映に耐えられるものでないと厳しい。

表 3-5-2 地域住民の視点からの ICT インフラの有効活用への意見・感想

- ・ ケーブルテレビで地域や生活、行政などに関する話題を取り上げることにより、住民が共通の意識をもち、地域に対する参加のきっかけを生み出すことになる。その結果、これまで行政任せであった事柄についても自分自身の問題として捉えていくことになり、住民の自立や地域活動・行政への積極的な参加を促すことができれば、ICTインフラは、さらに有効な通信手段となる。
- ・ 今後も、広域でインフラの有効的な番組の提供などがあれば積極的に取り入れたい。

表 3-5-3 映像作品を制作した学生へのアドバイスなど

- ・番組は個性的でよかったと思う。番組制作の一般的な流れとして、「企画・リサーチ・構成・下見・台本・日程調整・撮影・編集」という作業がある。通常は、撮影段階まで迎えたら、作業の7~8割が終わっているといわれている。次回は、このようなことを少し意識してみてもどうか。
- ・番組を拝見し、皆さんの積極的な活動に敬意を表するとともに、その地域における貴重な経験は、自身の視野が広がり、地域を知る最良の経験であると考えている。番組の制作に対する技術より、体験を通して感じたことをストレートに伝えることが大切であり、今回の作品は、非常に良く伝わってきて、楽しく見ることができた。地元の人を中心にその活動を紹介することで、よりわかりやすい番組になっていると思う。今度は、歴史的な生活背景から生まれた能登の風俗（例えばキリコの成立ち、アエノコトなどの特徴のある風習など）についての番組作りを行って下さい。全面的に協力します。
- ・学生の視点に立った番組で新鮮な感じがした。実際に現地での民泊した映像など、現地に行ってみてふれあった感じが伝わってよかった。
- ・ドキュメンタリー性があればもっとよかった。
- ・音楽などを多用しすぎて、少し雰囲気が伝わりにくいものがあった。
- ・途中でナレーションが入っている作品があり、雰囲気が伝わった。
- ・メーカー純正の物でよいので、外部マイクを付ける。
- ・手ブレに注意すること。
- ・作品自体はその場所の生音は必要不可欠であるため、入っていてよかった。作品の紹介場面では紹介者（進行者）の声が聞きづらかったのでマイク等でしっかり音声を入れることが重要です。（業務用カメラでないと難しいかもしれませんが・・・）
- ・カメラマンになって1年未満の私が先輩に教えてもらった事は、5秒は動かない。映像をつなげる際は、変化をつける。パン、チルトをする場合は、その動きに意味を持たせる。パン、チルトなどを多く使わない。基本はステイする。今回のビデオは動きすぎ。

d) 地域住民の視点からのコンテンツ制作への評価

地域住民の視点から制作されたコンテンツとして、各ケーブルテレビ局の自主放送枠で放映された学生の映像作品については、約7割の視聴者が「おもしろかった」と回答しており、「身近な人たちとの交流が描かれて、親近感が持てた」、「学生たちの気持ちが素直に伝わってきた」という点が評価される結果となった。また、試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」や長野県・新潟県のケーブルテレビ局が共同制作している自主番組「信越トライウォーク」に比べ、満足度が低かった理由としては、アマチュア作品ならではの「映像が見づらさ」及び「音声聞き取りづらさ」に大きな要因があるものと考えられる。

アマチュアの映像作品をケーブルテレビで放送することについては、約8割の視聴者に支持されており、パブリックアクセスチャンネル等への理解を示す視聴者が多いことがわかった。

今回の映像作品を制作した学生と同世代の若者からは、「映像や内容が素人らしくて、おもしろいと思った」という意見が最も多く、普段視聴している番組にはない新鮮さが評価される結果となった。また、作品を視聴したことにより、能登地域に興味を持った、祭りやろくろ体験をしてみたいという意見もあり、能登地域のPR効果のある作品であることがわかった。

学生の映像作品を放映した各局担当者の意見をまとめると、パブリックアクセスチャンネルとして、コンテンツの充実を期待する声が聞かれた一方で、視聴者と同様に放映に耐えうる作品の質を求める声も聞かれた。テレビ局が使用するような機材ではなく、一般家庭用ホームビデオを使用した作品に対し、映像・音声の質の向上を求めることは大変難しいものと考えられるが、番組制作のプロからのアドバイスを参考として、さらに質の高い住民視点のコンテンツ制作が望まれる。

3-6 他の地域の取組み事例について

【事例 1：専用ネットワーク・相互流通】

組織名	富山県ケーブルテレビ協議会（富山県内 16 局加盟）
整備インフラ	いきいきネット富山（伝送速度：基幹部 10Gbps、その他 1Gbps）
概要	富山県では、県内の全 CATV 局を光ファイバで接続した「いきいきネット富山」という広域 CATV ネットワークを平成 12 年に構築し、CATV サービスの県内世帯カバー率はほぼ 100%に達している。このネットワークを使用して、CATV 事業者間での自主放送番組の交換や「生中継」番組の配信を実施している。
共同番組枠名	みてねっと T O Y A M A（約 30 分）
内容	県内各局自慢の番組を交換放送
担当局	11 局（富山）
制作頻度	週 5 回（月～金）
運用形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山県内各局の自主制作番組を曜日毎に割り振り、毎週月～金、毎日 2 回放送（11:00～12:00、14:00～15:00 は再放送）している。 ・ 金曜日は「みてネットワイド」や「信越トライウォーク」を 1 時間枠で放送している。 ・ その他、祭りや選挙速報など、生中継番組も配信している。 ・ 配信方法としては、制作局が各局に事前案内を送り、受信希望局は FAX で制作局へ返信する。また、CM や提供スポンサーが入る場合は、事前にその旨を連絡し、中継の 1 時間前には音声基準信号を送信するなど、技術的なルールも決めている。
その他のネットワーク利活用	<p>【e-まち BOX】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報提供者ひとりひとりが「主役」になれる、プリクラ感覚ビデオレター。（コンテンツ自動収集システムのプロトタイプ） ・ 利用者自らが参加して情報を発信。 <p>【防災・災害情報提供システム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省や富山県の防災情報、気象協会の情報を非常時に放送する。 ・ 県内 16 の全ケーブルテレビ局を通じ、雪害や台風、洪水などのリアルタイム映像、気象データなどを一斉に伝える。

【事例2：相互流通・ネットワーク配信】

組織名	信越広域ネット
参加局	8局（長野・新潟）
共同制作番組名	信越トライウォーク（約30分）
内容	個性豊かなレポーターたちが、おもしろおかしく、時には真面目に各地の旬な情報を紹介
制作頻度	週1回
配信開始年月	2003年8月
運用形態	各局が持ち回りで各地のロケを実施。リポーター、カメラ・音声、編集もすべて各局で分担して行う。制作した番組は飯山にある共有サーバに保管され、加盟各局に配信する。
その他	番組は富山県内のケーブルテレビ局にも配信されている。また、年2回、全局から担当者が集まり、特集的な「信越トライウォーク」を共同制作する。

【事例3：相互流通・長期運用実績】

組織名	瀬戸内スペースケーブルネットワーク
参加局	6局（香川・岡山・愛媛）
共同制作番組名	瀬戸内スペースケーブルネット～SSCN（約30分）
内容	各地の話題を紹介
制作頻度	週1回
配信開始年月	1989年2月
運用形態	各局が制作した素材を持ち回り担当局にテープで送る。制作局が素材を1本化して、他局にテープで発送する。
その他	制作局の負担にならないよう、タイトル後は各局番組前にコーナータイトルで内容を紹介し、本編中は制作各局名を表示するのみとしている。

【事例 4：相互流通・固有テーマ】

組織名	歴史街道制作委員会
参加局	14 局（三重・京都・大阪・兵庫・奈良）
共同制作番組名	歴史街道 ～わたしたちのまちの歴史と文化～（約 15 分）
内容	庶民の感覚、生活者の視点で沿道地域の歴史・文化を紹介
制作頻度	月 2 本
配信開始年月	2007 年 1 月
運用形態	加盟局が持ち回りで 15 分番組を制作。制作局がテープをダビングし、他局に発送する。
その他	年に 1 回程度、全局参加の会議を開き、制作方針や番組の大まかなフォーマットを決める。

【事例 5：相互流通・ネットワーク配信・専用チャンネル】

組織名	東海ケーブルチャンネル（TCC）
参加局	20 局（静岡・岐阜・愛知・三重）
共同番組枠名	東海ケーブルチャンネル
内容	各局で放送している地域色豊かな番組のほか、各地で開催されるお祭りやスポーツ大会などのイベントの中継を専用チャンネルで放送
月平均交換番組数	約 100 本
配信開始年月	2006 年 6 月
運用形態	各局が提供したい番組を事業推進室に報告。事業推進室が放送番組を編成し、参加局間を接続している特設ネットワークを通じて各局に配信する。
その他	東海ケーブルチャンネルでは、各局で放送した番組の他に、共同制作のオリジナル番組として、地域情報バラエティ「ロコロコたいむ（約 30 分：隔週）」や地域の伝統や技術・技法を紹介する「たくみ～職人の技と心～（約 15 分：毎週）」を制作している。

【事例6：自主番組の多チャンネル化・PAG】

社名	株式会社中海テレビ放送
所在地	鳥取県米子市
サービスエリア	米子市、日吉津村、境港市、日南町、伯耆町、南部町、大山町
概要	多チャンネル放送を実施すること、地域番組の自主制作によって地域の活性化に寄与すること、地域情報の全国発信を目的として、地元企業170社の出資によって昭和59年に設立され、5年後の平成元年に放送を開始。平成4年11月に日本初のパブリックアクセスチャンネル放送を開始し、現在はニュース専門チャンネル、生活情報チャンネル、県民チャンネルなど、6つの自主制作チャンネルを運営するとともに、県内ケーブルテレビ局との番組交換にも積極的に取り組んでいる。
自主制作番組	<p>【各地域専用チャンネル】 市町村ごとに異なる生活関連情報を放映。(主に文字放送)</p> <p>【中海4チャンネル】 情報広場「パルディア」など、地域の様々な情報を放映。</p> <p>【コムコムスタジオ】 ニュース専門チャンネル「コムコムスタジオ 中海テレビニュース」を放映。</p> <p>【パブリックアクセスチャンネル】 市民からの投稿作品をそのまま放映。 ※優秀作品の表彰等を実施。</p> <p>【生活情報チャンネル】 地域のイベントや消防災害情報などを放映。(主に文字放送)</p> <p>【県民チャンネル】 鳥取県議会中継や県内CATV局の番組を放映。</p>

3-7 まとめ

ケーブルテレビ視聴者が、個別のアンテナ等で電波を受信して地上放送を視聴している人と一番異なる点は、地域に密着した情報等を提供することが可能な自主番組を視聴できるか否かであると思われる。そのため、本章では、ケーブルテレビのサービスの充実といった観点から、自主番組の充実方策について検討を行った。自主番組を充実するとは、内容や撮影といった番組の中身の充実はもとより、番組の放映頻度(放映時間)を上げることも重要である。一方、能登地域においては、地方自治体単位でケーブルテレビのサービスが行われているため、事業規模が小さく、番組制作に割く予算・スタッフ等に制約がある。そのため、どのケーブルテレビ事業者も、制作頻度を増やせないといった共通の悩みを抱えている。

こういった状況において、番組の制作頻度を上げるといった観点からの自主番組の充実方策について、以下の視点から検討を行った。

- ①能登地域内での番組交換
- ②番組の共同制作
- ③他地域の映像コンテンツの活用
- ④アマチュアが作成した映像コンテンツの活用

こういった視点に基づいて、以下の表の通り、実際にさまざまな映像コンテンツを、ケーブルテレビで放映し、視聴者の評価を行った。どの映像コンテンツも、満足度・有益性の観点から、一定程度の評価を得ることができた。

	実施したこと	実施の視点	満足度	有益性
1	「能登半島ヘッドライン」の制作・放映	・能登地域内での番組交換 ・番組の共同制作	89%	94%
2	「信越トライウオーク」の放映・評価	・他地域の映像コンテンツの活用	93%	80%
3	「県議会中継」の放映・評価	・他地域の映像コンテンツの活用	—	81%
4	「よそ者・若者が作成した映像コンテンツ」の放映・評価	・アマチュアが作成した映像コンテンツの活用	65%	77%

一方、こういった映像コンテンツの制作・放映は、どれも一つのケーブルテレビ事業者単独で実施することができず、他のケーブルテレビ事業者との連携が必要不可欠である。そのため、実施に当たっては、関係するケーブルテレビ事業者の連携に伴う負担をできる限り減らす工夫や、取りまとめ役となる人材の育成、を進めていく必要がある。負担の軽減策としては、情報のやり取りを円滑に行うため、各ケーブルテレビ網の相互接続を行うことも考えられる。そして、関係するケーブルテレビ事業者で、自主番組充実の必要性について共通認識を持った上で、最初から高い水準の番組作りを追い求めず、実施できるところから進めていくことが必要である。

本章で検討した取組み等についての分析・課題は下記のとおりである。

(1) 自主番組の制作状況・課題について

能登地域のケーブルテレビ局では、サービス充実の一環として、自主番組の制作の必要性はそれぞれ認識されており、多くの番組が週1回から月1回のペースでの更新である。

自主番組充実のための課題としては、ケーブルテレビ局担当者から「人材・機材の充実」、「情報源の確保」、「肖像権」や「議会中継への対応」などの意見が挙げられた。これらの課題は、ケーブルテレビ局の経営が、他の放送局に比べ小規模であり、自主番組の制作スタッフや予算が限られていることが主な要因と考えられる。

(2) 能登地域内で自主番組の交換・共同制作を行うことについて

自主番組の相互流通は、コンテンツの充実のほかにも、「情報の共有化による市町間の交流促進」、「生活圏における情報ニーズの拡大」、「地域産業の活性化支援」などにも貢献できると考えられ、広域化する視聴者ニーズにうまくマッチングして能登地域全体の活性化につながることを期待される。

試験用広域情報番組「能登半島ヘッドライン」による検証の結果、能登地域の視聴者及びケーブルテレビ局担当者から一定の評価を得ることができた。

ケーブルテレビ局のそれぞれの事情から、今後、継続して「能登半島ヘッドライン」のような番組を制作することは難しいのではないかと意見も聞かれたが、経験や人員の少ないケーブルテレビ局の負担を軽減するような、例えば、画像や説明文を入れればすぐに番組としてできあがるような番組フレームを決定しておくことなどの制作上のルールを確立することにより、能登エリアを対象とした広域情報番組の共同制作は十分可能であり、早急に本格的な体制構築を進めることが望まれる。

(3) 能登地域以外と自主番組の交換を行うことについて

自主番組の相互流通は、「地域間の連携強化」や「観光交流の促進」などに貢献できるだけでなく、「ケーブルテレビ局間の連携による情報の共有化」や「番組交換を行うことによる制作力・技術力の向上」につながることを期待される。

「信越トライワーク」と「能登半島ヘッドライン」による相互流通の検証の結果、能登地域の視聴者及びケーブルテレビ局担当者から一定の評価を得ることができた。また、相互流通を実施したことにより、互いの番組の改善点や番組交換に関する技術的な課題も明らかにすることができた。

ケーブルテレビ局担当者からは、遠方のローカル情報に対するニーズの低さを懸念する意見も聞かれたが、地理的に必ずしも詳しくない遠方の視聴者でも番組に入り込みやすくなる工夫（マップや文字解説など）を加えることにより、お互いの距離感を縮め、さらに多くの視聴者に興味を持ってもらうことは可能と考える。

今後は、長野県・新潟県だけでなく、北陸地域全体を対象とした相互交流を本格的に進め、観光交流の促進等に貢献することが望まれる。

(4) 県議会中継の配信について

議会中継は、ケーブルテレビ局が提供する視聴者ニーズの高い番組の1つである。現在、市議会・町議会中継を実施しているケーブルテレビ局が多いが、県民の視点として、県議会を中継することもコンテンツの充実につながるものと考えられる。

県議会中継の配信による検証の結果、能登地域の視聴者及びケーブルテレビ局担当者から一定の評価を得ることができた。

ケーブルテレビ局担当者からは、市議会・町議会中継との調整や費用負担等を心配する意見も聞かれたが、県議会中継については、能登地域以外でも放映を希望しているケーブルテレビ局は多数あると思われる。

今後は、多くのケーブルテレビ局と連携することにより、少ない作業量・費用負担で県議会中継を実現することが望まれる。

(5) アマチュアが制作した映像コンテンツの活用について

ケーブルテレビで提供する自主番組については、視聴者から必ずしも完成度の高い番組を求められているとは限らず、少人数またはアマチュアが制作した番組でも、コンテンツの充実に貢献しうる可能性がある。

地域住民の視点から制作された金沢星稜大学 澤信俊ゼミ学生の映像作品による検証の結果、能登地域の視聴者、県内の若者（学生）及びケーブルテレビ局担当者から一定の評価を得ることができた。また、能登地域の視聴者の多くがパブリックアクセスチャンネルに理解が示すとともに、域外住民に対する観光 PR 効果もあることがわかった。

当然のことながら、作品（映像・音声）の質については、番組制作のプロに遠く及ばないが、各局担当者からのアドバイスや高齢者への配慮を加えることにより、さらに質の高いコンテンツを制作することは可能であり、各局のコンテンツ充実に向けて、パブリックアクセスチャンネルが浸透することが望まれる。

(6) 他の地域の取組み事例について

他の地域の取組み事例では、県域を越える広域的な相互流通や専用サーバを利用したネットワーク配信、また、自主番組の多チャンネル化やパブリックアクセスチャンネル（PAC）などの取組みを紹介した。

紹介した事例の中で、最も長い運用実績を持つ瀬戸内スペースケーブルネットワークでは、できる限り制作局の負担にならないような制作上の配慮が図られていた。また、参加局数が最も多い東海ケーブルチャンネルでは、番組を各局のコミュニティチャンネルとは別に、独立した専用チャンネルで配信している。

広域的な相互流通やパブリックアクセスチャンネル（PAC）などの取組みは、制作担当者だけでなく、組織としての活動への理解が不可欠となる。これら先進的な取組みの有効性、有益性を理解した上で、自局の広域コミュニティ戦略として、積極的な参画が望まれる。

第4章 ブロードバンド・ICT利活用の促進

能登地域においては、つい最近まで、光ファイバーサービスはごく一部の地域に限られており、また、ADSL サービスについても未提供エリアが存在するなど、ブロードバンドや ICT を利用する十分な環境が整っているとは、いえない状況であった。一方、ここ数年、急速にケーブルテレビ網が整備され、一般家庭においてもブロードバンドを利用できる環境が整ってきたところである。

こういった能登地域のブロードバンド整備の状況を鑑みると、まずは、ブロードバンドや ICT を用いると、“何ができるのか”、“何が便利になるのか”といった、ブロードバンドや ICT の魅力を率直に伝えることが重要であると考えられる。そのため、本章では、地域の方を対象に、実際にブロードバンドや ICT の魅力に“触れてもらう”、“体験してもらう”ことを主眼としたセミナー・実証実験を行い、その結果を分析した。

4-1 能登半島 ICT 利活用セミナーの実施

平成 20 年 6 月 13 日、和倉温泉観光会館（石川県七尾市）において、本調査検討会の一環として「能登半島 ICT 利活用セミナー」が開催された。ここ 1～2 年の間に、急速に整備が進む能登地域のケーブルテレビ事業者と岩手県、佐賀県、長崎県のケーブルテレビ事業者等をネットワークで結び、各地域の ICT 利活用に関する活動状況の報告等を通じて、ブロードバンドやケーブルテレビの魅力を紹介した。また、セミナーの冒頭では、七尾市の武元市長と七尾市の姉妹都市である韓国・金泉市の朴市長との間で、インターネットによるメッセージの交換が行われた。

各自治体関係者からは、「先進地の ICT 利活用の状況をつぶさに見ることができた今回のセミナーを、今後の能登地域における ICT 利活用の促進と地域活性化の契機にしたい」との声が聞かれた。

(1) 開催概要

- 日 時 平成 20 年 6 月 13 日（金）
 - 機器展示 12：30～17：00
 - 講演 13：00～16：00
 - 名刺交換会 16：10～17：00
- 場 所 和倉温泉観光会館 中ホール・会議室
石川県七尾市和倉町 2 部 13-1
- 主 催 総務省 北陸総合通信局、七尾市、北陸テレコム懇談会、
情報通信月間推進協議会

■後援 JGN2plus 北陸地区推進協議会、岩手県立大学、
東北地方 JGN2plus 利用推進協議会、
九州情報通信連携推進協議会、
次世代高度ネットワーク九州地区推進協議会

■協賛 財団法人電気通信普及財団

■来場者数 75 名

(2) プログラム

【セミナー】

13 : 00～13 : 30 開会挨拶



総務省 北陸総合通信局 局長 福本 謙二 氏
石川県 七尾市 市長 武元 文平 氏
大韓民国 金泉市 市長 朴 寶生 氏

13 : 30～14 : 10 講演 1「ブロードバンドインターネットの魅力と利活用」



長岡技術科学大学 教授 山崎 克之 氏

14 : 10～14 : 30 講演 2「ICT による能登地域の活性化の可能性」



金沢星稜大学 教授 澤 信俊 氏

14 : 40～15 : 20 実証実験 1「東北地域における CATV 網を利用した
コンテンツ配信の活動について」



岩手県立大学 教授 柴田 義孝 氏

15:20~16:00

実証実験 2「九州地域におけるケーブルテレビと連携した
ICT 促進に向けた取組み」

九州情報通信連携推進協議会 事務局長 広岡 淳二 氏



【名刺交換会】

16:10~17:00



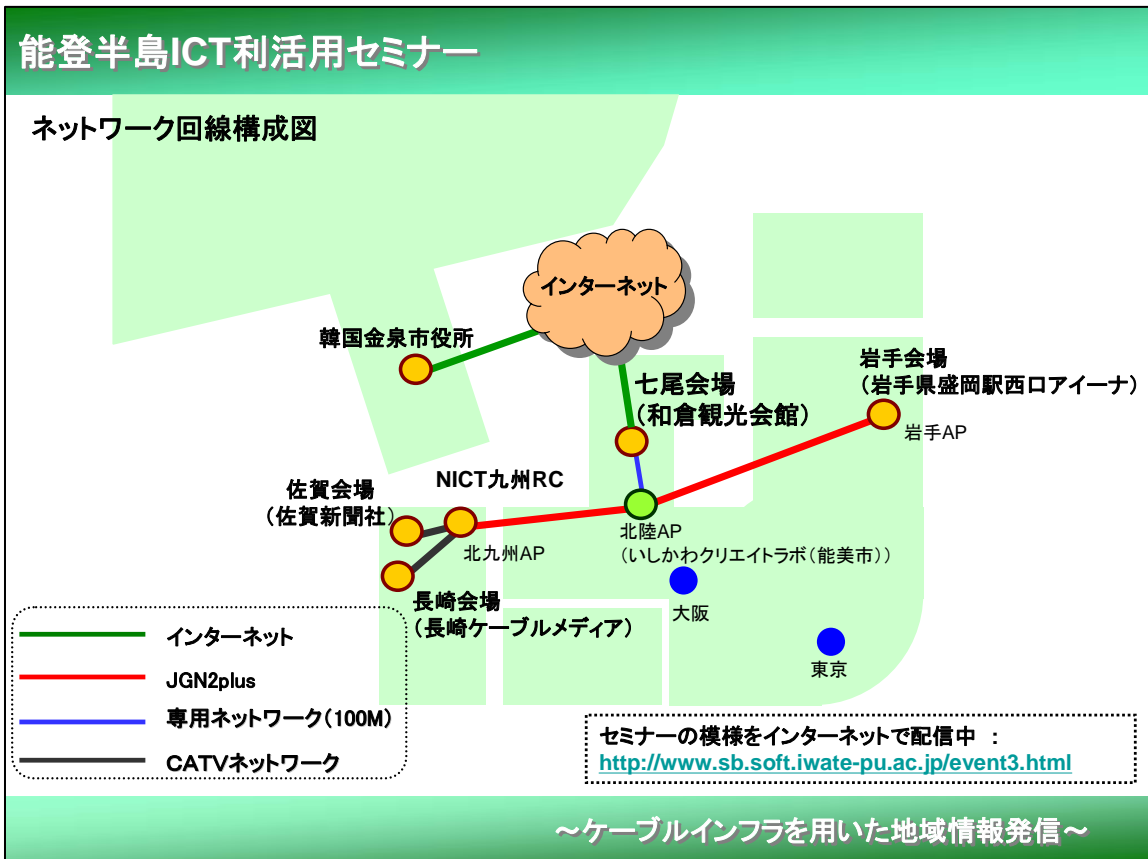
【展示・デモンストレーション】

12:30~17:00



出展企業：松下電器産業株式会社、
株式会社ヨーズマー

(3) ネットワーク構成



4-2 遠隔夕食会の実施

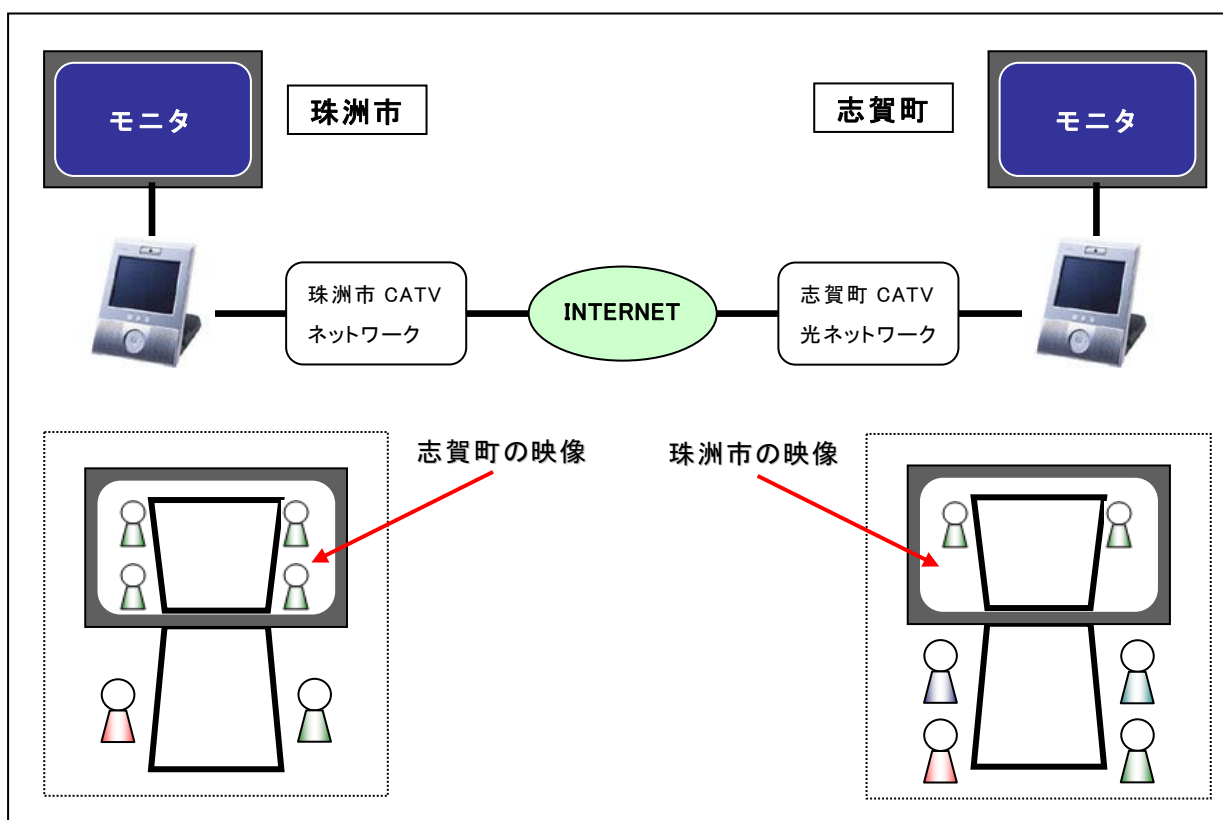
平成 20 年 11 月 12 日、ケーブルインフラを用いて提供されるブロードバンドサービス（インターネット）を活用し、能登地域の 2 世帯（珠洲市～志賀町間）の家庭をテレビ会議システムで結んだ遠隔夕食会の実証実験が行われた。

遠隔夕食会に参加した各関係者からは、いずれもコミュニケーションツールとしての将来性に期待する声が聞かれ、ICT の新たな活用法として大きな期待が持てる実験結果となった。

(1) 開催概要

- 日 時 平成 20 年 11 月 12 日 19 時～
- 場 所 珠洲市大谷町 及び 志賀町高浜町
- 家族構成 (珠洲市側) 父、母
 (志賀町側) 長女夫婦、孫（2人）
- インフラ構成 (珠洲市側) 能越ケーブルネット
 (志賀町側) 志賀町ケーブルテレビネットワーク

(2) ネットワーク構成



(3) ネットワーク接続機器



IPテレビ電話：
 フレッツフォンVP1000
 NTT西日本



機材セッティングの様子

【仕様】

基本機能	TV 電話	映像：MPEG4/H.263 音声：G.711（ハンズフリー）
	ストリーミング	Windows Media® 9
	WEB ブラウザ	Internet Explorer® 6.0 for Windows® CE
	IP 電話	音声：G.711（ハンズフリー）
	表示	TFT LCD（VGA8 インチ）、65,536 色
	カメラ	CMOS 30 万画素
	操作	タッチパネル
	TV 出力	映像：NTSC Composite video × 1ch、S-Video × 1ch 音声：Stereo × 1ch
	ネットワーク	10BASE-T/100BASE-TX
対応プロトコル	IPv4/IPv6、SIP（IP テレビ電話サービス対応）/H.323、 その他 UPnP（NAT トラバーサル機能）、PPPoE	
ユーザ I/F	ボタン	方向ボタン、インターネットボタン/メールボタン/TV 電話ボタン
	電源ランプ	電源が入っているときに緑色に点灯
	LINK ランプ	LAN のリンクが確立しているときに橙色に点灯
	DATA ランプ	LAN のデータが送受信されているときに緑色に点灯
外部コネクタ	USB ポート	USB1.1 以上 × 2
	LAN ポート	10BASE-T/100BASE-TX × 1
	S 映像出力端子	NTSC S-Video OUT × 1
	映像出力端子	NTSC Composite OUT × 1
	カメラ入力端子	NTSC Composite IN × 1
	マイク入力端子	Mono IN × 1（φ3.5 ミニプラグ、プラグインパワー対応）
	ハンドセット 接続ポート	専用インタフェース
電源コネクタ	DC Jack × 1	
電源	入力電圧：AC100V、50/60Hz 定格出力：DC12V/3.75A	
消費電流	最大 2.0A	
動作環境	温度：5℃～40℃、湿度：5%～85%（ただし、結露しないこと）	
電波妨害波規格	VCCI クラス B	
サイズ	214（W）× 227（D）× 243（H）mm	
重量	1.7kg	

※NTT西日本ホームページより

(4) 関係者の意見・感想

■ 体験者のコメント

最高です。孫たちが病弱なので、今日はすごくはしゃいでいたので、ほっとしています。いつも常にメールをしては、「今日病院に行ってきた」とかそんな感じなので、この珠洲にはなかなか来れないので、そういったときにこのように孫たちの顔を見ることができて、『すぐそこ』、『手が届く』、という感じが良いですね。

■ 有識者（見学者）のコメント

文字（メール）や音声（通常電話）によるコミュニケーションよりも、今回の実験的「遠隔夕食会」でみられた普段のあるがままの様子が実感できるビジュアル・コミュニケーションは、利用者双方の喜怒哀楽が直に伝わり、相互信頼と人間関係の深化に役立つ手段であることが確認できました。このようなビジュアル・コミュニケーション・ツールの普及によって、ユビキタス・ネット社会が実現することを期待します。

■ ケーブルテレビ（ブロードバンドサービス）関係者のコメント

これまでの通信方法である電話では、会話のみであるため、その表情や様子を知ることにはできないが、今回の夕食会で使用した機器は、カメラと画面がセットになっていて、相手の表情や様子を見ながらの通信であり、これからの新しい通信のあり方であると感じた。こうしたことは、今でも、パソコンを使って同様のことはできるが、年配者には取扱いが難しいものである。珠洲市の様に高齢化率が40%を超えている所では、都市部に家族がいたりするケースが多いため、こうした機器が普及することで、新たなコミュニケーションツールとして、大いに活用できるのではないかと感じた。

■ 通信事業者のコメント

夕食会に参加されたご家族の方々の喜んで頂けた姿がよかった。珠洲市側の奥様のコメントで、こうした技術が非常に簡単に実現できることに驚きというご感想をいただきよかったと思う。夕食は家族団らんの時間と空間であり、それが遠隔地との間でも気軽にしかも違和感なく共有することができれば、家族間や親戚間の日常のコミュニケーションが深まり、大変有用であると考えます。

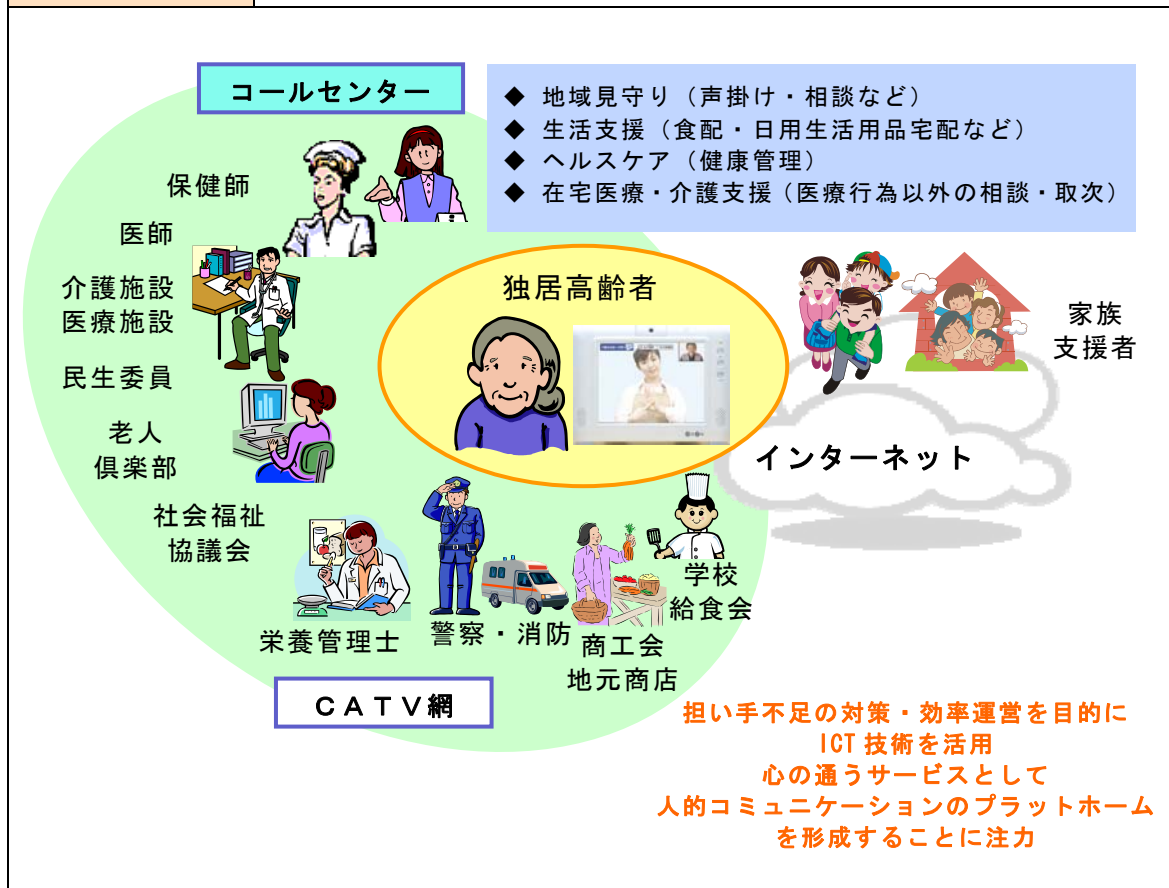
■ 遠隔夕食会の様子



4-3 他の地域の ICT 利活用取組み事例について

(1) 高齢者等の安心・安全生活サポート事業（島根県奥出雲町）

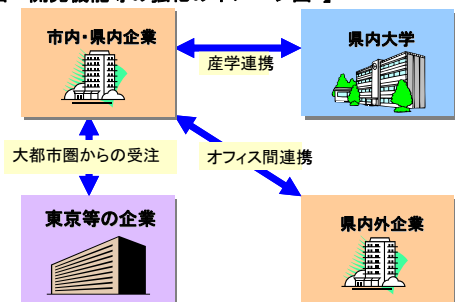
事業目的	孤独な一人暮らし高齢者等が急増する中山間地において、安心・安全なコミュニティをつくり、社会参画を促すことで、元気なお年寄りを増やし、持続可能な社会保障体制の整備を目指す。
内容	独居高齢者を中心に、コールセンターが中核となり、テレビ電話による声掛けや生活を支援する各種サービスを提供する。都市部在住家族も、テレビ電話により、支援の輪に加わり、お年寄りのメンタルヘルス充実を図る。
着工、竣工	着工：平成 20 年 11 月、竣工：平成 21 年 1 月
整備システム	<ul style="list-style-type: none"> ・コールセンターシステム . . . CRM（顧客 DB 管理） ・ケータリングシステム . . . 受発注宅配 ・ヘルスケアシステム . . . 血圧計情報管理 ・電話帳システム . . . 電話簡易発信 ・文字予告放送システム . . . 既存音声告知補完 ・緊急情報システム . . . 緊急事態の通報 ・安否確認システム . . . 安否状況収集 ・ごみ収集表示・バス時刻表示・アンケート調査システム
端末設置予定数	760（双方向情報端末「万事万端」：株式会社コトブキソリューション）



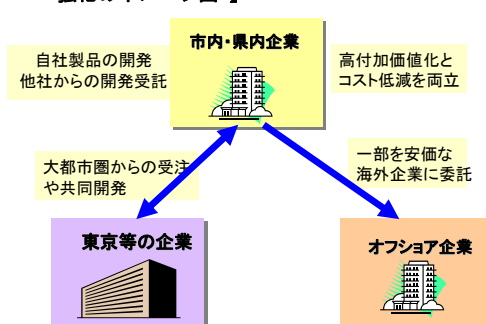
(2) テレビ電話システム等の普及促進モデル事業(富山県南砺市)

事業目的	テレビ会議システム等を活用して、大都市圏や海外等の遠隔地の企業等と緊密な連携を図り、企業の企画・開発機能の強化や生産の効率化・低コスト化、オフィス機能等の誘致を推進する。また、テレワーク等の新たな就業環境の普及により、若者等の定住人口の増加や技術者・専門家等の転入を促進し、地域の活性化を図る。
内容	<p>テレビ会議システム等の普及を促進するため、操作性の改善や複数の企業・事業所間等を安全で効率的に結び情報を共有できるシステムの構築と、ネットワークとして自立的に普及するよう、次の事業を展開する。</p> <p>(1) 新たなテレビ会議システム等の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 既存のテレビ会議システム等の操作性の改善 ○ 低コストで使い易く、映像や音声情報と同時に電子ファイル等を安全に共有できる、各パソコン端末等を結ぶ IPv6 対応のシステムの構築 <p>(2) テレビ会議システム等の普及促進のための事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 大都市圏等の企業や大学等との連携による製品企画・開発機能等の強化 ○ 海外企業等との連携による国際競争力の強化 ○ テレワーク等の推進による人材の確保・定住の促進
事業開始年度	平成 19 年度
取組みにより期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広帯域・定額（低額）なネットワークの普及 ・ 資料共有により協働・協調作業が可能 ・ IPv6 や専用装置により安全に企業間を接続 ・ 濃密連携による普及拡大

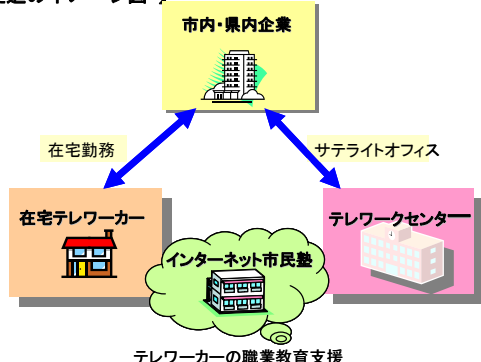
【 大都市圏等の企業や大学等との連携による製品企画・開発機能等の強化のイメージ図 】



【 海外企業等との連携による国際競争力の強化のイメージ図 】



【 テレワーク等の推進による人材の確保、定住の促進のイメージ図 】

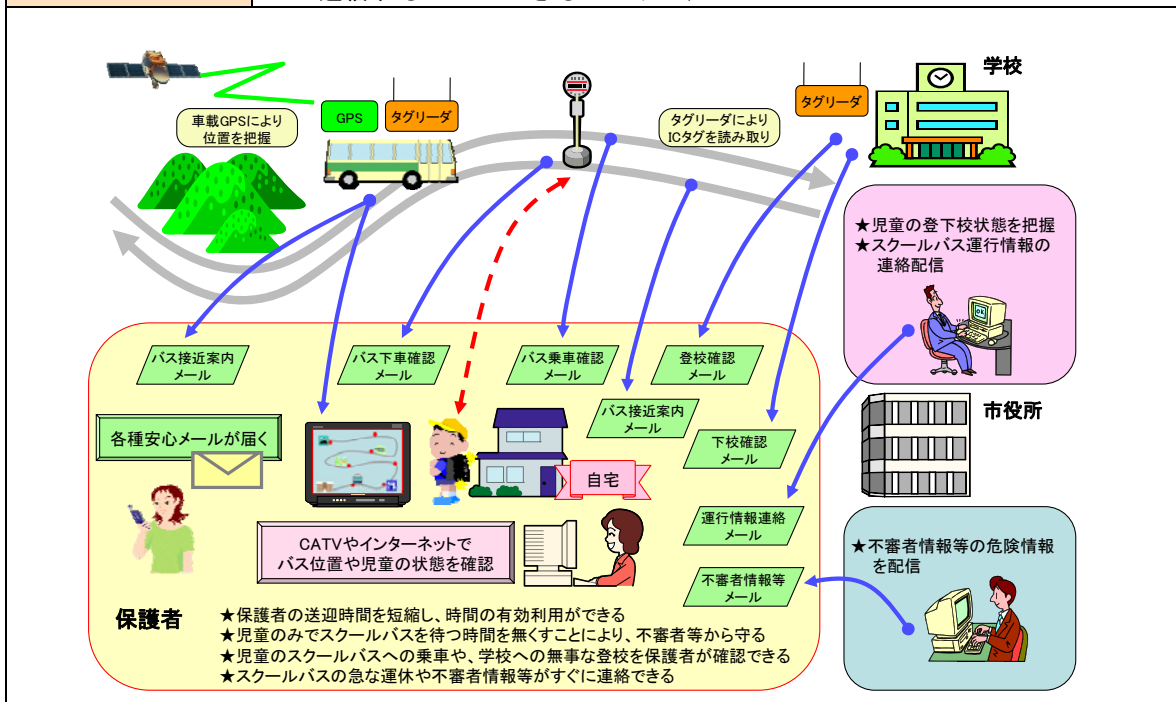


○ テレビ会議システム等を活用して、大都市圏や海外等の遠隔地の企業等と緊密な連携を図り、企業の企画・開発機能の強化や生産の効率化・低コスト化、オフィス機能等の誘致を推進する。

○ テレワーク等の新たな就業環境の普及により、若者等の定住人口の増加や技術者・専門家等の転入を促進し、もって地域の活性化を図る。

(3) 地域児童見守りシステムモデル事業（富山県氷見市）

事業目的	近年、児童が犯罪に巻き込まれる悲惨な事件が後を絶たず、地域における児童の安全確保が喫緊の課題となっていることから、ICT を活用し、地域における児童見守りシステムモデルの構築・運用し、その成果を全国に普及させ、安心・安全な地域社会の実現を目指す。
内容	<p>下記の課題を解決する効率的なシステム活用方法の追求と、住民参加による永続的な運用方式の実現を検証する。</p> <p>①運行時間の変動によるバス停待ち時間の短縮</p> <p>②安心・安全情報の携帯情報端末・PC・CATV・簡易端末等、多メディアでのコンテンツ配信の実現</p> <p>③バス運行時における不測の事態に備えた連絡連絡手段の確保</p>
事業開始年度	平成 19 年度
システムの類型	電子タグを用いるもの（アクティブタグ）
システム概要	<p>①登下校確認：児童用玄関等に設置されたアクティブ無線タグ読取装置でアクティブ無線タグが検知されると、管理サーバへ情報を送信し、登録された保護者に見守り通知メールを送る。</p> <p>②情報提供：児童の乗り降りする地点（バス停）を事前に登録しておき、スクールバスの到着状況を自宅のPC や携帯電話にメール通知し、運行時間の変動に対応する。</p> <p>③状態把握：児童の登下校状態やスクールバスの位置情報を、テキストや簡易図によりPC、携帯ブラウザ及びCATV 画面から参照可能とする。</p> <p>④危険通報：通学路における危険情報を Web 連携システムと連動し、保護者メールアドレスへメール送信する。（Web 連携システム：市ホームページへ危険情報等の緊急情報を公開すると同時に当該情報を希望者に対しメール送信することができるシステム）</p>



4-4 まとめ

(1) 活動概要

①能登半島 ICT 利活用セミナーの実施について

“ケーブルインフラを用いた地域情報発信”をテーマとして開催された「能登半島 ICT 利活用セミナー」では、能登半島（会場：和倉温泉観光会館）と、岩手・佐賀・長崎県のケーブルテレビ事業者をネットワークで結び、各地域の活動状況の紹介等を通じて、ブロードバンドやケーブルテレビといった ICT の魅力を紹介した。

また、地域間を結ぶに当たっては、独立行政法人情報通信研究機構が運用する研究開発テストベッドネットワーク JGN2plus を活用することで、次世代ネットワークとしてのケーブルインフラの持つ可能性について、出席者の理解を深めることに務めた。

②遠隔夕食会の実施について

ブロードバンドサービス（インターネット）を活用し、能登地域の 2 世帯（珠洲市～志賀町間）の家庭をテレビ会議システムで結んだ遠隔夕食会では、参加した各関係者からコミュニケーションツールとしての将来性に期待する声が多数聞かれ、ICT の新たな活用法として大きな期待が持てる実験結果となった。

今回の実証実験では、夕食会に限定したシステム構成であったが、高齢化、核家族化の進む現代においては、「医療」や「福祉」、また地域のコミュニティの形成にも ICT 利活用の場が広がるものと考えられ、利用するネットワーク端末機器には、テレビ電話機能の他にも、文字（データ）伝達や緊急信号発信などの複合的な機能が付加されることが望まれる。

③他の地域の ICT 利活用取組み事例について

他の地域の ICT 利活用取組み事例では、先進的な利活用モデルとして、高齢者などの安心・安全生活サポート事業、テレビ電話システム等の普及促進モデル事業、及び地域児童見守りシステムモデル事業を紹介した。

これらの事例は、高齢者や子どもたちの安心・安全へのサポートや地域経済の活性化に ICT インフラが有効活用できることを実証するためのモデルケースであり、これらの事例は、使用する端末装置や技術的システム等はほぼ完成されており、普及のためには各市町村のニーズと予算に合致したビジネスモデルが確立できるか否かにかかっている。一方で、装置やシステムを開発・提供するメーカー等の積極的な営業展開も全国に波及していく鍵になると思われる。

(2) その他の利活用事例の検討

昨年5月に開催した第2回調査検討会において、各委員に本調査検討会で取り上げ、検討してみたいICTインフラの先進活用事例について調査したところ、CATVを活用した高齢者や子供の安全・安心に係わるサービスの事例、防災情報提供サービスの事例、ICTインフラを活用した交通案内の事例、遠隔医療支援システムの事例等が挙げられた。

こうした各委員の希望を踏まえて、当初、本検討会においてこれらの先進事例のうちのいくつかについて取り上げ、検討を行って、場合によっては実証実験等も実施したいと考えていたが、時間の都合等により十分に検討することができなかった。今後の課題である。

こういった利活用事例を検討するに当たっては、その分野の専門家にも参画いただき、場合によっては、分野に特化した検討会等を立ち上げることが望まれる。

第5章 提言（能登地域における望ましい ICT 利活用の方策について）

本調査検討会では、能登地域における ICT インフラ活用方策として、ケーブルテレビのサービスの充実とブロードバンドの利活用促進という2つの観点から検討を進めてきた。本章では、そうした検討を踏まえ、能登地域における望ましい ICT 利活用の方策についてまとめる。

5-1 ケーブルテレビのサービスの充実

(1) 自主番組の充実

ケーブルテレビのサービスの特徴の1つとして、自主番組がある。自主番組では、行政情報を含む地域に密着した情報の提供が可能となる。一方、能登地域では、地方自治体単位でケーブルテレビのサービスが提供されており、ケーブルテレビの事業規模が小さい。そのため、自主番組制作に対する予算・スタッフ数等に制約があり、自主番組の制作頻度は、1週間に一度といったところが多く、中には、まだ制作していないところもある。

一方、自主番組に対する視聴者のニーズ・期待は高く、そういった限られた人的・予算的なりソースの中で、自主番組を充実していくことが、ケーブルテレビ・サービスを充実させるために必要不可欠である。具体的には、以下のような方策について検討・実施することが適当である。

a) 他のケーブル事業者との番組交換

自主番組の中には、その地域に特化したような情報もあれば、他の地域にも有益となるような情報もある。前者の例としては市議会・町議会中継や小・中学校の入学式・卒業式が考えられる。後者の例としては祭りなどのイベント情報が考えられる。イベント情報については、通勤・通学等で日頃から交流のある地域間において、特に有用であると考えられ、まずは、そういったところから自主番組の交換を行っていくことが適当である。また、交流がそれほど密でない地域間においても、例えば、地域からの情報発信により、観光等の交流に資するなどのメリットがあり、自主番組の交換を積極的に行っていくことが適当である。

番組交換の方法としては、テープ等記録媒体の手渡しといった方法から、ネットワークで相互接続してやり取りをするといった方法、などが考えられる。この中から相互流通の頻度やコストを勘案して適当な方法を選ぶことになるが、番組交換を積極的、かつ、継続的におこなっていくためには、相互接続したネットワークを用いて行っていくことが適当である。

b) 他のケーブル事業者との自主番組の共同制作

自主番組の交換から、一步進んで、自主番組を共同で制作することも、自主番組の充実策として有効であり、検討・実施することが適当である。

なお、制作に当たっては、できる限り、制作側、特に、編集の負担を軽減するように配慮する必要がある。例えば、共通のサーバを準備して、各自でサーバに制作した映像コンテンツを保存すれば、編集、さらには、各ケーブルテレビで番組を入手することも容易になる。ただし、ケーブルテレビ事業者ごとに、整備されているケーブルテレビの機材や番組制作ノウハウに差があり、そういった違いに留意する必要がある。

c) 県議会中継の実施

現在、能登地域のケーブルテレビ事業者の中には、市議会・町議会中継を行っているところがあり、住民ニーズの高い番組の1つとなっている。一方、県議会中継についても、潜在的なニーズがあるとともに、富山県等他地域でも行われているところである。そのため、県議会のケーブルテレビでの中継についても、自主番組充実といった観点から検討を進めるべきである。

一方、県議会中継の実施については、能登地域だけに限ったことではなく、石川県の他の地域のケーブルテレビ事業者にも関係する。そのため、全県的な検討が求められる。

県議会中継を実現するに当たっては、費用負担の問題、さらには、県議会本会議場から各ケーブルテレビまでの配信をどのように行うかといった技術的な問題について留意する必要がある。

d) アマチュアが制作した映像コンテンツの活用

自主番組の制作に当たっては、自ら制作、他のケーブル会社のコンテンツの活用、に加えて、アマチュアが作った映像コンテンツを活用していくことも有効であると考えられる。本調査検討会の中でも、大学生の作ったコンテンツが、視聴者から一定の評価を受けており、自主番組の充実の一環として、検討・実施すべきである。これらの映像コンテンツをケーブルテレビで放映するに当たって、ケーブル事業者は、ノウハウやテクニックを使ってきちんとした制作意図を持って作らなくてはならないといった、今までの番組制作に対する考え方を転換する必要がある。確かにきちんとした番組を制作することが基本ではあるが、限られた予算と人員の中で、より自主番組を充実させるためには、こうした方法を考える必要がある。

こうした映像コンテンツの入手手段としては、ケーブルテレビ事業者ごとに個別に行う方法も考えられるが、例えば、能登広域でデジタル映像コンテストのようなものを開催して、良質なコンテンツを一般住民等に求めることも考えられる。コンテストの開催に当たっては、能登の自然などテーマを決めて行うこともひとつの方法である。

さらに、そういったコンテンツを地元の中学生・高校生等に見てもらうことで、将来的な人材育成に役立てることも有効であると考えられる。

(2) 国内外への地域情報発信のツールとしての自主番組の活用

能登地域に特有な祭りであるキリコ祭りをはじめとして能登地域の地理的・文化的魅力は、必ずしも、国内・国外に十分に知られていない状況である。そのため、情報発信のツールの1つとして自主番組を有効に活用していくことが望まれる。具体的には、前述した他地域のケーブルテレビ事業者との番組交換を通じて、情報発信することが考えられる。また、自主番組をインターネット等を通じて配信することやさらに、能登空港等観光客が多数集まる公共の場で放映することなども考えられ、地域情報発信のための有力なコンテンツとなり得る。

5-2 ブロードバンド・ICT 利活用の促進

(1) ブロードバンド・ICT 利活用の魅力の周知

本調査検討会では、実証実験・セミナーの開催、他の地域の活用事例の紹介等を様々な活動を通じて、ブロードバンドや ICT の魅力を地域住民の方々に知ってもらい、理解を深めていただくことも目的のひとつとしてきた。特に、テレビ会議システムを使った遠隔夕食会はその反響も大きなものであった。今後とも、地域住民レベルへの周知活動を、不断なく続けていくことが重要であり、地方自治体等において、あらゆる機会を捉えて、地域住民への周知を行っていくことが必要である。

また、北陸総合通信局においては、他の地域の先進的活用事例の紹介や具体的ビジネスモデルの提案等を、機会あるごとに行っていくことが必要である。

(2) ブロードバンド・ICT インフラの有効活用

総務省が平成 20 年 6 月に取りまとめた「デジタル・ディバイド解消戦略会議」報告書においても、インフラの整備と利活用促進を一体的に行うべきとの提言がなされているところである。ICT インフラの整備・利活用促進により、観光等の産業振興、新産業の創出、医療・教育の高度化、行政情報の提供等を通じた住民生活の向上、に寄与できる可能性を秘めており、地方自治体等は、住民に魅力あるアプリケーションの導入など、積極的にインフラの有効活用を図っていくことが望ましい。その際、総務省が実施する地域 ICT 利活用モデル事業等の施策を有効に活用していくことが望まれる。

また、北陸総合通信局は、総務省の ICT 利活用に係る様々な施策を周知していくことが望ましい。

(3) ICT インフラの相互接続

各市町の ICT インフラが相互接続されると、他地域への情報発信、逆に、他地域の自主番組等情報の入手が容易に行えるなどのメリットがある。また、場合によっては、ヘッドエンド等設備の共有を図ることも可能となってくる。そのため、他県の先行事例等を参考に相互接続について検討していくことが望まれる。

5-3 その他

(1) 関係地方自治体の実務担当者による連絡会議の設置

本調査検討会では、自主番組の充実方策を検討するため、能登地域の地方自治体の実務担当者から構成されるワーキング・グループ（WG）を設置し、様々な検討を行ったところである。WGに参加した各市町の担当者は、他地域の状況についての情報交換等を通じて、意識や能力の向上が図られたところである。他地域の動向等を把握し、参考になる点を自身の業務に反映していくことは、きわめて有益なことであり、連携を図る際にも有効である。今後も引き続き、実務担当者による連絡会議を設置し、定期的に意見交換を行っていくことが適当である。

この連絡会議には、必要に応じて、県や北陸総合通信局もオブザーバーとして参加し、意見交換を進めていくことが望ましい。

また、将来的には、必要に応じ、参加する実務担当者の範囲を広げて全県的な体制にすることが望ましい。

(2) ケーブルテレビ・ICT 利活用に必要な人材の育成

特に、地方自治体自らが運営しているケーブルテレビ事業者では、人事異動等による担当者の流動性が高く、結果として、ケーブルテレビの運営・制作等に必要なノウハウが十分に引き継がれない場合も考えられる。そのため、専門的な知識を持った人材の育成に努めるとともに、組織として知識・ノウハウの蓄積を努めていくことが望まれる。

また、他地域の例を見ると、他のケーブルテレビ事業者との連携を推進するに当たっては、取りまとめの核となるようなキーとなる人材・組織がいるが、そういった人材の育成も重要な課題である。

さらに、ICT の利活用に当たっては、医療・教育など ICT を適用する分野の専門知識と、ICT に関する専門知識の両方を有している人材が望ましいのは言うまでもなく、そういった人材の育成に努めることが望ましい。各市町は、情報化社会を迎えた今日、常に人材育成を考慮していなければならない。地域の情報化が停滞することは、すなわち、その地域そのものが停滞することにつながりかねない時代なのである。具体的な人材育成の方法としては、総務省の施策である地域情報化アドバイザーの制度等を活用することも重要である。

資料編

-
- 資料 1 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 開催要綱
- 資料 2 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 構成員名簿
- 資料 3 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 開催経緯
- 資料 4 : ワーキンググループの設置について
- 資料 5 : ワーキンググループ構成員名簿
- 資料 6 : ワーキンググループ活動経緯

資料 1 : 能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会 開催要綱

1 目的

能登地域では、ここ数年内に全ての地方自治体でケーブルインフラが整備され、地域に密着した自主放送や多チャンネルのテレビジョン放送が提供されるとともに、ブロードバンドによるインターネット環境が整うことになる。

能登地域は、地理的な条件不利地域にあり、漁業中心の経済構造のまま過疎化、少子高齢化、若者の流出が進行している。一方、能登地域において整備されるケーブルをはじめとしたICTインフラは、有効に活用することにより、医療・教育といった分野への活用や行政情報の提供を通じた住民の一層の安心・安全・豊かな暮らしへの寄与、観光業等既存産業の振興、新産業の創出等の地域振興に寄与できる可能性を秘めている。

本調査検討会では、能登地域における地域事情を踏まえ、他の地域におけるICTインフラの活用事例、実証実験等を通じて、関係者間でICTインフラの有用性について共通認識を得るとともに、能登地域にふさわしいICTインフラの利活用方策を検討することを目的とする。

2 名称

本会の名称は「能登地域における ICT インフラの活用に関する調査検討会」とする。

3 調査検討事項

本会は、以下の事項について調査検討する。

- (1) 能登地域における ICT インフラ整備・サービス展開の状況
- (2) 他の地域における ICT インフラの活用事例
- (3) 能登地域の暮らしや産業において期待される ICT インフラの利活用方法・実現に当たっての課題
- (4) ICT インフラの利活用推進に向けた方策

4 構成及び運営

- (1) 本会は、北陸総合通信局長の検討会として開催する。
- (2) 本会の構成員は、別紙のとおりとする。
- (3) 本会には、座長を置く。
- (4) 座長は、検討会構成員の互選により定める。
- (5) 検討会は、必要に応じてワーキンググループを置くことができる。
- (6) その他本会の運営に必要な事項は、座長が定めるところによる。

5 開催期間

本会の開催期間は、平成 20 年 4 月から平成 21 年 3 月を目途とする。

6 庶務

本会の庶務は、総務省北陸総合通信局情報通信部電気通信事業課が行う。

資料２：能登地域におけるICTインフラの活用に関する調査検討会 構成員名簿

【構成員】

氏名	所属・役職	備考
畔上 修一	西日本電信電話株式会社金沢支店法人営業部長	平成20年7月から
石丸 健	社団法人石川県情報システム工業会事務局長	
大西 祥浩	石川県企画振興部情報政策課長	平成20年7月から
亀井 公顯	西日本電信電話株式会社金沢支店副支店長	平成20年6月まで
金平 勲	財団法人石川県産業創出支援機構経営支援部アドバイザー	
澤 信俊	金沢星稜大学経済学部教授	座長
早田 豪	石川県商工労働部産業政策課長	
巽 一郎	珠洲市総務課長	
寺尾 隆之	志賀町情報推進課参事	
中西 悦子	石川県企画振興部情報政策課長	平成20年6月まで
中村 宗幹	七尾市企画政策部情報政策課長	
中山 由紀夫	輪島市総務部企画課長	
奈良 周治	株式会社石川コンピュータ・センター取締役	
坂東 裕	能登町広報情報推進課長	
日名田 正之	能越ケーブルネット株式会社代表取締役社長	
廣瀬 康雄	中能登町情報推進課長	
松島 英章	北陸通信ネットワーク株式会社取締役営業部長	
村本 道廣	石川県映像事業協同組合専務理事	
和布浦 将司	金沢ケーブルテレビネット株式会社専務取締役放送本部長	
安原 俊克	能登の旅情報センター所長代理	
吉間 篤	穴水町企画情報課長	

(五十音順、敬称略)

【オブザーバー】

氏名	所属・役職	備考
高橋 孝之	株式会社中海テレビ放送専務取締役	第3回検討会
宮川 明大	七尾市企画政策部情報政策課ケーブルテレビ推進室専門員	第3、4回検討会
湯瀬 裕昭	静岡県立大学経営情報学部経営情報学科准教授	第4回検討会
仙石 慎一郎	西日本電信電話株式会社七尾営業支店支店長	第4回検討会

(敬称略)

事務局 総務省北陸総合通信局情報通信部
株式会社パステルラボ（事務局運営委託先）

資料3：能登地域におけるICTインフラの活用に関する調査検討会 開催経緯

	開催日	内容
第1回	平成20年 4月24日(木)	(1)調査検討会の進め方について (2)ワーキンググループの設置について (3)地域住民の視点からのICTインフラの有効な活用方法についての調査の実施について (4)能登半島ICT利活用セミナーの開催について (5)奥能登地域の状況について (6)富山県ケーブルテレビ協議会の概要について (7)調査の実施について
セミナー	平成20年 6月13日(金)	「能登半島ICT利活用セミナー」 和倉温泉観光会館(石川県七尾市)
第2回	平成20年 6月13日(金)	(1)ワーキンググループの取組み状況について(中間報告) (2)ICTインフラ・サービスの整備状況について (3)ICTインフラ活用に関する意向調査について (4)今後、調査検討会で取り上げる分野・テーマについて (5)ICT利活用セミナー～ブロードバンドを用いた遠隔夕食会～(仮称)の開催について
講演会	平成20年 10月31日(金)	地域情報化推進講演会「地域力を創るCATVの役割」 講師：株式会社中海テレビ放送 専務取締役 高橋孝之氏 金沢広坂合同庁舎1階 大会議室
第3回	平成20年 10月31日(金)	(1)ワーキンググループの活動報告について (2)地域住民の視点からのICTインフラの有効活用調査について(中間報告)
実証実験	平成20年 11月12日(水)	「ブロードバンドを用いた遠隔夕食会」 珠洲市大谷町～志賀町高浜町
第4回	平成21年 2月6日(金)	(1)地域住民の視点からのICTインフラの有効活用調査について(報告) (2)ブロードバンドを用いたテレビ会議システムによる実証実験(遠隔夕食会)の開催結果について(報告) (3)能登地域以外との自主番組の相互流通の評価について (4)県議会中継について (5)最終報告書の構成及び提言について 講演「地域と連携したICT活用」 講師：静岡県立大学経営情報学部経営情報学科准教授 湯瀬裕昭氏 プレゼンテーション「ビジュアルコミュニケーション活用の紹介」 ：西日本電信電話(株)
第5回	平成21年 3月24日(火)	(1)地域住民の視点からのICTインフラの有効活用調査について (2)県議会中継について (3)最終報告書について (4)報告書を受けた来年度以降の具体的なアクションについて

資料4：ワーキンググループの設置について

ケーブルテレビのサービスの一環として制作される自主番組の充実のための方策について検討を行うため、下記のようなワーキンググループ（WG）を設置した。

1 目的

ケーブルテレビのサービスの質を高める方策の一つとして、自主番組の充実が考えられるが、そのための課題・方策等について検討を行うことを目的とする。さらに、構成員の間でその結果を共有することにより、関係者の意識・能力の向上を図る。

2 検討項目

- ① 各地方自治体（ケーブル会社）における自主番組の制作状況
- ② 自主番組充実のための意義・課題・方策
（意義：サービスの質を高める
課題：素材確保、編集、専門スタッフ、予算
方策：自主番組流通、地域住民からの素材確保、アーカイブ化 等）
- ③ 地方自治体間（ケーブル会社間）で相互に自主番組の流通を行う意義・課題
- ④ 能登地域以外のケーブル会社と相互に自主番組の流通を行う意義・課題
- ⑤ 取り組むべき方策

資料５：ワーキンググループ構成員名簿

【構成員】

氏名	所属・役職	備考
上野 実	穴水町企画情報課係長	
江上 良則	輪島市総務部放送課主事	
瀧川 哲也	志賀町情報推進課係長	
仲谷 宗	能登町広報情報推進課主事	
前田 保夫	珠洲市総務課主査	WG 副主査
宮川 明大	七尾市企画政策部情報政策課ケーブルテレビ推進室専門員	WG 主査
宮川 武志	中能登町情報推進課（放送センター）	

（五十音順、敬称略）

【オブザーバー】

氏名	所属・役職	備考
佐々木 貴康	石川県企画振興部情報政策課主幹	
奥 隆雄	石川県企画振興部情報政策課主任企画員	
宮下 淳	七尾市企画政策部情報政策課ケーブルテレビ推進室主事	
澤 信俊	金沢星稜大学経済学部教授	検討会座長
西 和雅	株式会社ケーブルテレビ富山技術部長	第3回 WG
竹内 幸男	株式会社ケーブルテレビ富山番組制作部長	第3回 WG

（敬称略）

事務局 総務省北陸総合通信局情報通信部
株式会社パステルラボ（事務局運営委託先）

資料 6 : ワーキンググループ活動経緯

	開催日	内容
第 1 回	平成 20 年 5 月 23 日 (金)	(1) ワーキンググループの進め方について (2) 地域資源の発掘・発信の可能性調査について (3) 各地方自治体の ICT インフラ整備及び自主番組制作状況について (4) 第 2 回会合に向けての取組みについて
第 2 回	平成 20 年 6 月 5 日 (木)	(1) 自主番組充実のための意義・課題・方策について (2) 自主番組の編集・放映・検証について (3) 第 3 回会合に向けての取組みについて (4) 第 2 回調査検討会 (親会) への中間報告について
第 3 回	平成 20 年 7 月 4 日 (金)	(1) 能登地域内で自主番組の相互流通を行う意義・課題について (2) 能登半島ヘッドライン (仮称) の制作・放映について (3) 能登地域以外と自主番組の相互流通を行う意義・課題について
編成会議	平成 20 年 7 月 29 日 (火)	(1) 能登半島ヘッドラインの制作方針について (2) 能登半島ヘッドラインの編集方法について
編成会議	平成 20 年 8 月 21 日 (木)	(1) 信越における取組状況及び番組交換について (2) 県議会中継について
第 4 回	平成 20 年 8 月 29 日 (金)	(1) 能登半島ヘッドラインの制作・放映の評価について (2) 能登地域以外との自主番組の相互流通の実施について (3) 報告書の作成について
第 5 回	平成 20 年 10 月 6 日 (月)	(1) 能登地域以外との自主番組の相互流通の評価について (2) 親会への報告書案について
第 6 回	平成 20 年 12 月 17 日 (水)	(1) プレゼンテーション「地域情報課推進サービスプラットフォームの形成について」: (株)コトブキソリューション (2) 報告書の提言及び報告書を受けた来年度以降の具体的なアクションについて (3) 地域住民の視点からの ICT インフラの有効活用調査について (4) 県議会中継の配信について

用語解説

用語	解説
ADSL	電話線を使い高速なデータ通信を行なう技術で、一般の加入電話に使われている 1 対のメタル回線を使って通信。
CATV	有線テレビジョン放送(ケーブルテレビ)のこと。
CRM	Customer Relationship Management の略。情報システムを応用して企業が顧客と長期的な関係を築く手法。
DV	1994 年、家庭用として発表されたデジタルビデオの規格の 1 つ。
DVCAM	DV 規格をベースにソニーが開発した業務用ビデオフォーマット。
FTTH	Fiber To The Home の略。光ファイバによる家庭向けのデータ通信サービス。
HD	High Definition の略。テレビなどの高解像度のこと、いわゆるハイビジョンの品質を持った映像信号の総称。
HFC	Hybrid Fiber Coax の略。光ファイバと同軸のケーブルを組み合わせたもの。
ICT	Information and Communication Technology の略。情報・通信に関連する技術一般の総称。
IP	Internet Protocol の略。インターネットによるデータ通信を行うために必要な通信規約。
IPv4	現在のインターネットで利用されているインターネットプロトコル(IP)。
IPv6	Internet Protocol Version 6 の略。現行のインターネットプロトコルをベースに、管理できるアドレス空間の増大、セキュリティ機能の追加、優先度に応じたデータの送信などの改良を施した次世代インターネットプロトコル。
JGN2plus	独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が運用する超高速・高機能の研究開発テストベッドネットワーク。
L3-SW	コンピュータネットワークの構成機器で、主に LAN の中核を構成する機器。
OFDM	Orthogonal Frequency Division Multiplexing の略。直交周波数分割多重。無線通信方式の 1 つで、無線 LAN や地上デジタル放送などに用いられているデジタル変調方式。
PAC	Public Access Channel(パブリックアクセスチャンネル)の略。視聴者自らが制作する番組。
PPP	Point to Point Protocol の略。電話回線を通じてコンピュータをネットワークに接続するダイヤルアップ接続でよく使われるプロトコル。
PPPoE	PPP over Ethernet の略。PPP の機能をイーサネットを通して利用するためのプロトコル。
SD	Standard Definition の略。従来のテレビ放送などに用いられている標準解像度の映像信号の総称。
UPnP	Universal Plug and Play の略。家庭内のパソコンや周辺機器、AV 機器、電話、家電製品などの機器をネットワークを通じて接続し、相互に機能を提供しあうための技術仕様。
アクティブタグ	電子タグ(RFID)の種類の一つで、電池を内蔵して数十 m 程度の長距離での通信が可能なタイプの IC タグのこと。電池を内蔵しないタイプは「パッシブタグ」と呼ばれる。
イーサネット	コンピュータネットワークの規格の一つで、世界中のオフィスや家庭で一般的に使用されている LAN で最も使用されている技術規格
コンテンツ	内容、中身のこと。特に、メディアによって提供される、ニュースなどの情報や音楽・映画・漫画・アニメ・ゲームなど各種の創作物を指す。
肖像権	自分の顔や姿を無断で撮影・描写され、それを公表されたりすることを拒否する権利。
データ放送	主にデジタルデータを送信することを目的とした放送で、従来からの映像・音声コンテンツに様々な文字情報や双方向サービスを付加して送出することができる。
デジタル・ディバイド	パソコンやインターネットなどの情報技術を使いこなせる者と使いこなせない者の間に生じる格差。
電子タグ(RFID)	物体の識別に利用される微小な無線 IC チップのこと。自身の識別コードなどの情報が記録されており、電波を使って管理システムと情報を送受信する。無線タグ、無線 IC タグ、などとも呼ばれる。

用語	解説
トランスモジュレーション	受信した放送信号をケーブルテレビ伝送用の変調方式（64QAM）に再変換して伝送する方式。
パススルー	受信した放送の搬送波に含まれている放送信号を加工せずにそのまま再送信する方式。同一周波数パススルー方式と周波数変換パススルー方式がある。
フォーマット	記憶装置固有のデータ記録方式（形式・様式）のこと。
プロトコル	ネットワークを介してコンピュータ同士が通信を行なう上で、相互に決められた約束事。通信手順、通信規約など。
フレッツ	NTT(東日本・西日本)が運用する光ファイバを用いた一般家庭向けデータ通信サービス。